

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号  
特許第7377370号  
(P7377370)

(45)発行日 令和5年11月9日(2023.11.9)

(24)登録日 令和5年10月31日(2023.10.31)

|                          |         |        |       |   |
|--------------------------|---------|--------|-------|---|
| (51)国際特許分類               | F I     |        |       |   |
| A 4 1 D 13/12 (2006.01)  | A 4 1 D | 13/12  | 1 5 4 |   |
| A 6 1 F 13/42 (2006.01)  | A 6 1 F | 13/42  |       | B |
| A 6 1 F 13/505 (2006.01) | A 6 1 F | 13/505 | 1 0 0 |   |
| A 6 1 B 1/00 (2006.01)   | A 6 1 B | 1/00   | 6 5 0 |   |

請求項の数 24 (全29頁)

|                   |                             |          |                    |
|-------------------|-----------------------------|----------|--------------------|
| (21)出願番号          | 特願2022-545671(P2022-545671) | (73)特許権者 | 306037311          |
| (86)(22)出願日       | 令和3年8月25日(2021.8.25)        |          | 富士フイルム株式会社         |
| (86)国際出願番号        | PCT/JP2021/031160           |          | 東京都港区西麻布2丁目2番30号   |
| (87)国際公開番号        | WO2022/045194               | (74)代理人  | 110001988          |
| (87)国際公開日         | 令和4年3月3日(2022.3.3)          |          | 弁理士法人小林国際特許事務所     |
| 審査請求日             | 令和5年1月30日(2023.1.30)        | (72)発明者  | 出島 工               |
| (31)優先権主張番号       | 特願2020-145854(P2020-145854) |          | 神奈川県足柄上郡開成町宮台798番地 |
| (32)優先日           | 令和2年8月31日(2020.8.31)        |          | 富士フイルム株式会社内        |
| (33)優先権主張国・地域又は機関 | 日本国(JP)                     | (72)発明者  | 大木 友博              |
|                   |                             |          | 神奈川県足柄上郡開成町宮台798番地 |
|                   |                             |          | 富士フイルム株式会社内        |
|                   |                             | (72)発明者  | 永宮 研二              |
|                   |                             |          | 神奈川県足柄上郡開成町宮台798番地 |
|                   |                             |          | 富士フイルム株式会社内        |
|                   |                             | (72)発明者  | 井山 勝蔵              |
|                   |                             |          |                    |

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 内視鏡検査用検査衣

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

被検体を覆う被覆部であって、内視鏡の挿入部を挿入する挿入口と、吸引チューブを挿入する吸引チューブ口とを有する被覆部と、  
前記挿入口に設けられ、前記挿入口における流体の通過を抑制する第1流体抑制部材と、  
前記吸引チューブ口に設けられ、前記吸引チューブ口における流体の通過を抑制する第2流体抑制部材とを備え、  
前記第1及び第2流体抑制部材の少なくとも1つは、  
前記挿入部の挿入方向と平行な第1スリットが形成された第1多孔質部材を少なくとも有する内視鏡検査用検査衣。

10

【請求項2】

被検体を覆う被覆部であって、内視鏡の挿入部を挿入する挿入口と、吸引チューブを挿入する吸引チューブ口とを有する被覆部と、  
前記挿入口に設けられ、前記挿入口における流体の通過を抑制する第1流体抑制部材と、  
前記吸引チューブ口に設けられ、前記吸引チューブ口における流体の通過を抑制する第2流体抑制部材とを備え、  
前記第1及び第2流体抑制部材の少なくとも1つは、  
3本の第1スリットが形成された第1多孔質部材と、  
3本の第2スリットが形成された第2多孔質部材とを有する内視鏡検査用検査衣。

【請求項3】

20

前記挿入方向と平行、かつ前記第 1 スリットと交差する第 2 スリットが形成された第 2 多孔質部材を有する請求項 1 に記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 4】

前記第 1 多孔質部材及び前記第 2 多孔質部材は、長方形の外形を有し、  
前記第 1 スリットのうち 1 本は前記第 1 多孔質部材の 1 辺と直交して配され、  
前記第 2 スリットのうち 1 本は前記第 2 多孔質部材の 1 辺と直交して配され、  
前記第 1 多孔質部材及び前記第 2 多孔質部材は、前記第 1 スリットに対して挿入方向と  
平行な中心軸回りに 180°回転させた位置に前記第 2 スリットが配された状態で前記被  
覆部に取り付けられる請求項 2 に記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 5】

前記第 1 及び第 2 流体抑制部材の少なくとも 1 つは、  
前記第 1 多孔質部材と前記第 2 多孔質部材とが積層された状態で前記被覆部に取り付け  
られる請求項 1 ないし 4 のいずれか 1 項に記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 6】

前記被覆部は、被検体の胸部が通る胸穴と大腿部が通る腿穴を備えたパンツ型の被覆部  
である請求項 1 ないし 5 のいずれか 1 項に記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 7】

前記被覆部は、前記腿穴の周囲に、前記腿穴を収縮させる収縮部材を設けた請求項 6 に  
記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 8】

前記収縮部材は、前記腿穴に対して 2 重に巻かれた紐又は弾性部材である請求項 7 に記  
載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 9】

前記収縮部材は、前記腿穴の周囲に配されたギャザーである請求項 7 に記載の内視鏡検  
査用検査衣。

【請求項 10】

前記被覆部は、被検体に巻き付け可能な平面状のシートで形成されている請求項 1 ない  
し 5 のいずれか 1 項に記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 11】

前記シートは、展開状態にした場合、四角形状の外形を有する請求項 10 に記載の内視  
鏡検査用検査衣。

【請求項 12】

前記シートは、展開状態にした場合、T 字状の外形を有する請求項 10 に記載の内視鏡  
検査用検査衣。

【請求項 13】

前記被覆部が前記被検体に巻き付けられた状態を保持する保持部材を備える請求項 10  
ないし 12 のいずれか 1 項に記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 14】

前記第 1 及び第 2 流体抑制部材の少なくとも 1 つを前記被覆部に取り付ける固定部材を  
備えた請求項 1 ないし 13 のいずれか 1 項に記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 15】

前記固定部材は、前記被覆部が前記被検体を覆った際、前記被覆部の外側に延出する筒  
状部材を備える請求項 14 に記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 16】

前記第 1 及び第 2 流体抑制部材の少なくとも 1 つは、前記被覆部が前記被検体を覆った  
際、前記被覆部の外側に突出する凸部を有する請求項 15 に記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 17】

前記被覆部は透明又は半透明な部材で形成される請求項 1 ないし 16 のいずれか 1 項に  
記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 18】

10

20

30

40

50

前記被覆部の内部に液体を吸収する吸収材を設けた請求項 1 ないし 17 のいずれか 1 項に記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 19】

前記吸収材は、前記被覆部に対して着脱可能にした請求項 18 に記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 20】

前記吸収材は、液体を吸収することにより色が変化する変色部を設けた請求項 18 又は 19 に記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 21】

前記被覆部は、  
胸穴の周囲、又は前記被検体を覆った際、前記被検体の胸部に位置する箇所にギャザーを設けた請求項 1 ないし 20 のいずれか 1 項に記載の内視鏡検査用検査衣。

10

【請求項 22】

前記被覆部は、側面及び股部分に、ユーザの力で切り離すことが可能な脆弱部を設けた請求項 6 ないし 9、請求項 6 を引用する請求項 14 ないし 21 のいずれか 1 項に記載の内視鏡検査用検査衣。

【請求項 23】

前記被覆部は、  
内部に洗浄液を注入する洗浄液注入口を有する請求項 1 ないし 22 のいずれか 1 項に記載の内視鏡検査用検査衣。

20

【請求項 24】

前記被覆部は、  
液体を貯留する貯留部を有する請求項 1 ないし 23 のいずれか 1 項に記載の内視鏡検査用検査衣。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、内視鏡検査の際に被検者が着衣する内視鏡検査用検査衣に関する。

【背景技術】

【0002】

医療分野において、挿入部を大腸等の下部消化管に挿入して観察を行う下部消化管観察用の内視鏡が知られている。下部消化管観察用の内視鏡によって観察を行う際、被検者は、検査衣を着衣する。

30

【0003】

従来、内視鏡検査用検査衣としては、胸穴と、2つの腿穴を有するパンツ型の検査衣が知られている。このような検査衣では、後面側に内視鏡の挿入部を挿入するための開口部が形成されている。特許文献1には、おむつ素材、すなわち吸収性のある素材から形成したパンツ型の検査衣について記載されている。このおむつ素材の検査衣では、内視鏡の挿入部が出し入れできる程度の逆T字型の切口（開口部）を後面側に設け、切口の周りをロック掛けまたはかがり縫いで補強している。また、このおむつ素材の検査衣では、腿穴から体液が流出しないように、収縮性を有するテープ状の布と防止用ギャザーが腿穴の周囲に設けられている。

40

【0004】

一方、下部消化管を観察する内視鏡検査では、腸内に排泄物（便）などがあると正確な状況を調べられないために、前処理として下剤、腸管洗浄剤を飲み、腸内の排泄物を出してから内視鏡検査をすることが多い。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【文献】特開2014-237913号公報

50

## 【発明の概要】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0006】

しかしながら、前処理が不十分な被検者、または下血等で緊急を要する被検者の場合は、前処理が不十分な状態のまま内視鏡検査をしなければならないこともある。この場合、検査中に送り込まれる空気や洗浄水と一緒に腸内の排泄物や血液等の体液が勢いよく放出されるため、上記特許文献1記載のようなおむつ素材の検査衣では、被検体から放出される体液が検査衣で吸収できる容量を超えてしまうことがある。このため、内視鏡の挿入部を挿入するための開口部から体液が漏れる可能性がある。

## 【0007】

医療分野では、感染症に対してさらなる予防対策を講じることが望まれている。特に感染症患者の体液等の内容物が、目や口等の粘膜に接触することによる感染、及び感染症患者から放出される飛沫を吸い込むことによって生じる感染を防ぐ対策が重要となっている。よって、内視鏡検査用の検査衣においても、体液及び飛沫の漏出を防ぐことが求められている。

## 【0008】

本発明は、内視鏡の挿入部を被検体の肛門から挿入する際、体液及び飛沫の漏出を防ぐことができる内視鏡検査用検査衣を提供することを目的とする。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0009】

本発明の内視鏡検査用検査衣は、被覆部と、第1流体抑制部材と、第2流体抑制部材とを備え、第1及び第2流体抑制部材の少なくとも1つは、挿入部の挿入方向と平行な第1スリットが形成された第1多孔質部材を少なくとも有する。被覆部は、被検体を覆う被覆部であって、内視鏡の挿入部を挿入する挿入口と、吸引チューブを挿入する吸引チューブ口とを有する。第1流体抑制部材は、挿入口に設けられ、挿入口における流体の通過を抑制する。第2流体抑制部材は、吸引チューブ口に設けられ、吸引チューブ口における流体の通過を抑制する。

## 【0010】

本発明の内視鏡検査用検査衣は、被覆部と、第1流体抑制部材と、第2流体抑制部材とを備え、第1及び第2流体抑制部材の少なくとも1つは、3本の第1スリットが形成された第1多孔質部材と、3本の第2スリットが形成された第2多孔質部材とを有する。被覆部は、被検体を覆う被覆部であって、内視鏡の挿入部を挿入する挿入口と、吸引チューブを挿入する吸引チューブ口とを有する。第1流体抑制部材は、挿入口に設けられ、挿入口における流体の通過を抑制する。第2流体抑制部材は、吸引チューブ口に設けられ、吸引チューブ口における流体の通過を抑制する。

## 【0011】

被覆部は、被検体の胸部が通る胸穴と大腿部が通る腿穴を備えたパンツ型の被覆部であることが好ましい。

## 【0012】

被覆部は、腿穴の周囲に、腿穴を収縮させる収縮部材を設けることが好ましい。収縮部材は、腿穴に対して2重に巻かれた紐又は弾性部材であることが好ましい。あるいは、収縮部材は、腿穴の周囲に配されたギャザーであることが好ましい。

## 【0013】

被覆部は、被検体に巻き付け可能な平面状のシートで形成されていることが好ましい。

## 【0014】

シートは、展開状態にした場合、四角形状の外形を有すること、または、シートは、展開状態にした場合、T字状の外形を有することが好ましい。

## 【0015】

被覆部が被検体に巻き付けられた状態を保持する保持部材を備えることが好ましい。

## 【0016】

10

20

30

40

50

第 1 及び第 2 流体抑制部材の少なくとも 1 つを被覆部に取り付ける固定部材を備えることが好ましい。

【0017】

挿入方向と平行、かつ第 1 スリットと交差する第 2 スリットが形成された第 2 多孔質部材を有することが好ましい。

【0019】

第 1 多孔質部材及び第 2 多孔質部材は、長方形の外形を有し、第 1 スリットのうち 1 本は第 1 多孔質部材の 1 辺と直交して配され、第 2 スリットのうち 1 本は第 2 多孔質部材の 1 辺と直交して配され、第 1 多孔質部材及び第 2 多孔質部材は、第 1 スリットに対して挿入方向と平行な中心軸回りに 180°回転させた位置に第 2 スリットが配された状態で被覆部に取り付けられることが好ましい。

10

【0020】

第 1 及び第 2 流体抑制部材の少なくとも 1 つは、第 1 多孔質部材と第 2 多孔質部材とが積層された状態で被覆部に取り付けられることが好ましい。

【0022】

固定部材は、被覆部が被検体を覆った際、被覆部の外側に延出する筒状部材を備えることが好ましい。第 1 及び第 2 流体抑制部材の少なくとも 1 つは、被覆部が被検体を覆った際、被覆部の外側に突出する凸部を有することが好ましい。

【0023】

被覆部は透明又は半透明な部材で形成されることが好ましい。

20

【0024】

被覆部の内部に液体を吸収する吸収材を設けることが好ましい。吸収材は、被覆部に対して着脱可能にしていることが好ましい。吸収材は、液体を吸収することにより色に変化する変色部を設けていることが好ましい。

【0025】

被覆部は、胴穴の周囲、又は被検体を覆った際、被検体の胴部に位置する箇所にギャザーを設けていることが好ましい。被覆部は、側面及び股部分に、ユーザの力で切り離すことが可能な脆弱部を設けていることが好ましい。

【0026】

被覆部は、内部に洗浄液を注入する洗浄液注入口を有することが好ましい。被覆部は、液体を貯留する貯留部を有することが好ましい。

30

【発明の効果】

【0027】

本発明によれば、内視鏡の挿入部を被検体の肛門から挿入する際、体液及び飛沫の漏出を防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【0028】

【図 1】下部消化管観察用の内視鏡及び検査衣を用いた内視鏡検査を示す概略図である。

【図 2】内視鏡検査用検査衣の正面側斜視図である。

【図 3】内視鏡検査用検査衣の背面側斜視図である。

40

【図 4】内視鏡検査用検査衣の背面図である。

【図 5】内視鏡検査用検査衣の要部断面図である。

【図 6】内視鏡検査用検査衣の構成を示す分解斜視図である。

【図 7】第 1 流体抑制部材の構成を示す斜視図である。

【図 8】第 1 流体抑制部材に挿入部が挿入された状態を説明する説明図である。

【図 9】第 1 流体抑制部材を被覆部に取り付ける際の説明図である。

【図 10】内視鏡検査用検査衣を着衣した被検者に対して内視鏡検査を行う際の動作について説明する説明図である。

【図 11】被覆部の内部に挿入部及び吸引チューブを挿入した状態を説明する説明図である。

50

【図 1 2】被覆部の内部に貯留部と吸収材とを重ねて配設した実施例を示す要部断面図である。

【図 1 3】第 2 実施形態における内視鏡検査用検査衣を着衣した被検者に対して内視鏡検査を行う際の動作について説明する説明図である。

【図 1 4】第 2 実施形態における第 1 流体抑制部材及び第 1 固定部材の斜視図である。

【図 1 5】第 2 実施形態における第 1 流体抑制部材及び第 1 固定部材の分解斜視図である。

【図 1 6】第 1 変形例の内視鏡検査用検査衣の斜視図である。

【図 1 7】第 1 変形例の内視鏡検査用検査衣を切り離した状態を示す斜視図である。

【図 1 8】第 2 変形例における内視鏡検査用検査衣の構成を示す分解斜視図である。

【図 1 9】第 2 変形例における流体抑制部材の構成を示す斜視図である。

10

【図 2 0】第 3 変形例における流体抑制部材の構成を示す斜視図である。

【図 2 1】第 3 変形例における流体抑制部材及び第 1 固定部材の分解斜視図である。

【図 2 2】第 3 変形例における内視鏡検査用検査衣の要部断面図である。

【図 2 3】第 3 実施形態における内視鏡検査用検査衣を着衣した状態の被検者の斜視図である。

【図 2 4】第 3 実施形態における内視鏡検査用検査衣を展開した状態の斜視図である。

【図 2 5】第 3 実施形態における内視鏡検査用検査衣を被検者に着衣させる方法について説明する説明図である。

【図 2 6】第 4 変形例における内視鏡検査用検査衣を着衣した状態の被検者の斜視図である。

20

【図 2 7】第 5 変形例における内視鏡検査用検査衣を展開した状態の斜視図である。

【図 2 8】第 5 変形例における内視鏡検査用検査衣を被検者に着衣させる方法であり、被覆部の縦線部分を被検者に巻き付ける方法について説明する説明図である。

【図 2 9】第 5 変形例における内視鏡検査用検査衣を被検者に着衣させる方法であり、被覆部の横線部分を被検者に巻き付ける方法について説明する説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0029】

[第 1 実施形態]

図 1 に示すように、本発明の内視鏡検査用検査衣 10（以下、検査衣 10 と称する。）は、大腸等の下部消化管を観察する内視鏡検査の際に使用される。内視鏡 2 は、挿入部 3 と、操作部 4 と、ユニバーサルコード 5 とを備えている。挿入部 3 は、被検体である被検者 P の下部消化管内に経肛門で挿入される。操作部 4 は、挿入部 3 の基端部に連設されている。ユニバーサルコード 5 は、操作部 4 に接続されている。なお、図 1 では、ユーザである医師 D が操作部 4 を一方の手で、挿入部 3 を他方の手で把持し、検査衣 10 を通して挿入部 3 を被検者 P の体内に挿入している状態を表している。また、被検者 P は、検査台 T の上で側臥位（横向きに寝た状態）で検査を受けている。

30

【0030】

ユニバーサルコード 5 は、コネクタ 5 A を介して、プロセッサ装置 11 や光源装置 12 などの外部装置に接続される。プロセッサ装置 11 は、ディスプレイ 13 及び UI（User Interface、ユーザーインターフェース）14 と電気的に接続される。UI 14 は、キーボード、マウス、タッチパッド、マイク等を有し、ユーザである医師 D の入力操作を受け付ける。

40

【0031】

挿入部 3 の先端面には、図示は省略するが観察窓や照明窓が設けられている。観察窓の奥にはイメージセンサ（図示せず）などが配置され、照明窓の奥には光ファイバケーブル（図示せず）が配置されている。イメージセンサの信号線や光ファイバケーブルは、挿入部 3、操作部 4、及びユニバーサルコード 5 内を通して、プロセッサ装置 11、光源装置 12 にそれぞれ接続される。プロセッサ装置 11 は、イメージセンサにより撮像した内視鏡画像に画像処理等を施してディスプレイ 13 に表示させる。

【0032】

50

また、検査衣 10 には、内視鏡 2 の挿入部 3 の他に、吸引チューブ 15 が挿入される。吸引チューブ 15 は、吸引装置 16 に接続されている。吸引装置 16 は、医師 D または介助者の操作により作動して負圧を発生する。吸引装置 16 を作動させることにより、吸引チューブ 15 を通して、検査衣 10 内部の体液が吸引される。なお、吸引装置 16 は、医師 D または介助者の手動操作により吸引を行うドレンでもよく、自動的に負圧を生じさせる吸引ポンプでもよい。

#### 【0033】

図 2 及び図 3 に示すように、検査衣 10 は、被検者 P が着衣する被覆部 21 と、第 1 流体抑制部材 22 と、第 1 固定部材 23 と、第 2 流体抑制部材 24 と、第 2 固定部材 25 と、紐 26 と、紐留め具 27 とを備える。本実施形態では、被覆部 21 は被検者 P の胸部から大腿部までの少なくとも一部を覆うパンツ型の被覆部である。被覆部 21 は透明又は半透明な部材であり、例えば透明又は半透明なビニール製のシートから形成されている。ここでいう半透明とは、薄く着色されているが透過性があり、中身を視認できることをいう。また、被覆部 21 によって覆われていない被検者 P の上半身については、検査衣 10 とは別に上半身用の検査衣を着衣してもよい。

10

#### 【0034】

被覆部 21 は、胸穴 21A と、2 つの腿穴 21B (図 1 参照) を有する。胸穴 21A 及び腿穴 21B は被覆部 21 の内部に通じている。胸穴 21A の周囲には、紐通し部 21C が形成されている。紐通し部 21C の内部には、紐 26 が配される。紐 26 の両端部は、紐通し部 21C の開口部 21D を通して、紐通し部 21C の外部に露出している。紐 26 の両端部は、紐留め具 27 によって 1 つにまとめられている。紐 26 に対する紐留め具 27 の相対位置を変えることによって、被検者 P の腰回りのサイズに合わせて紐 26 の長さを調整することができる。これにより、胸穴 21A から体液及び飛沫が漏出することを防止する。なお、紐 26 は、胸穴 21A に対して 2 重に巻くことが好ましい。なお、紐 26 に代えて、ゴムなどの弾性部材を胸穴 21A の周囲に 2 重に巻いてもよい。

20

#### 【0035】

腿穴 21B の周囲には、収縮部材としてのギャザー 21E を設けている。ギャザー 21E は、収縮性のあるゴムなどの弾性部材 (図示せず) が例えば、縫い付けられ、又は編み込まれることにより配設されている。これにより、腿穴 21B が収縮可能となっている。被検者 P が腿穴 21B に大腿部を通した場合、ギャザー 21E の収縮により腿穴 21B が大腿部に密着する。これにより、腿穴 21B から体液及び飛沫が漏出することを防止する。なお、腿穴 21B に設ける収縮部材としてはギャザー 21E に限らず、胸穴 21A と同様に腿穴 21B の周囲に、2 重に巻かれた紐、またはゴムを設け、腿穴 21B が大腿部に密着するようにしてもよい。また、胸穴 21A に設ける収縮部材として、腿穴 21B と同様のギャザー 21E を設けてもよい。

30

#### 【0036】

図 4 に示すように、第 1 流体抑制部材 22 は、被覆部 21 の背面側中央に配設されている。具体的には、被覆部 21 の左右方向 X における中心線 CL0 と、第 1 流体抑制部材 22 の左右方向 X における中心線 CL1 とが一致する位置に、第 1 流体抑制部材 22 が配設されている。第 1 流体抑制部材 22 は、被覆部 21 に対して第 1 固定部材 23 を介して取り付けられている。

40

#### 【0037】

一方、第 2 流体抑制部材 24 は、被覆部 21 に対して第 2 固定部材 25 を介して取り付けられている。第 1 流体抑制部材 22 及び第 2 流体抑制部材 24 は、被覆部 21 の上下方向 Y における位置が同じであり、被覆部 21 の左右方向 X に並んで配置されている。なお、以降では、被検者 P が検査衣 10 を着衣した場合の被検者 P から見た左右方向 X を、被覆部 21 又は第 1 流体抑制部材 22 における左右方向 X として、被検者 P が検査衣 10 を着衣した場合の被検者 P から見た上下方向 Y を、被覆部 21 又は第 1 流体抑制部材 22 における上下方向 Y として説明する。左右方向 X と上下方向 Y とは直交する。後述する挿入方向 Z は、左右方向 X 及び上下方向 Y と直交する方向である。

50

## 【 0 0 3 8 】

第 2 流体抑制部材 2 4（実線で示す箇所）は、被覆部 2 1 の左右方向 X において一方側に寄せて配置されている。本実施形態では、被覆部 2 1 の左右方向 X における中心線 C L 0 に対して、第 2 流体抑制部材 2 4 の左右方向 X における中心線 C L 2 が左側に寄せて配置されている（図 4 の実線で示す位置）。これは、内視鏡検査の際に、被検者 P が自身の左側を下に向けた側臥位を取ることが多いため、吸引用の第 2 流体抑制部材 2 4 を下側に配置することを考慮している。

## 【 0 0 3 9 】

図 5 及び図 6 に示すように、第 1 流体抑制部材 2 2 は、第 1 多孔質部材 3 1 と、第 2 多孔質部材 3 2 とから構成され、3 本のスリットを Y 字状に配置している。被覆部 2 1 は、挿入口 2 1 F が形成されている。挿入口 2 1 F は、第 1 流体抑制部材 2 2 の外形に合わせた貫通孔である。これにより、被覆部 2 1 が第 1 流体抑制部材 2 2 を塞ぐことがないため、挿入口 2 1 F 及び第 1 流体抑制部材 2 2 を通して、挿入部 3 を被覆部 2 1 の内部に挿入することができる。挿入口 2 1 F の周囲には、後述する嵌合ピン 3 3 C に合わせた嵌合孔 2 1 G が形成されている。

## 【 0 0 4 0 】

なお、被覆部 2 1 は、挿入口 2 1 F の他に、吸引チューブ口 2 1 H（図 5 参照）も形成されている。吸引チューブ口 2 1 H は、第 2 流体抑制部材 2 4 の外形に合わせた貫通孔である。図示は省略するが、吸引チューブ口 2 1 H の周囲にも、挿入口 2 1 F と同様に、嵌合孔 2 1 G が形成されている。なお、図 6 においては、図示の都合上、パンツ型の被覆部 2 1 のうち、挿入口 2 1 F 及び吸引チューブ口 2 1 H の周囲（2 点鎖線で囲む範囲）のみを切り取って図示している。

## 【 0 0 4 1 】

図 7 に示すように、第 1 多孔質部材 3 1 は、3 本の第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C を有する。第 1 多孔質部材 3 1 は、柔軟性を有する多孔質材料を四角形の板状に形成したものである。第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C は、Y 字状に配される。さらに具体的には、第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C は、120°の等角度間隔で配され、第 1 多孔質部材 3 1 の中心で繋がっている。第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C のうち、1 つの第 1 スリット 3 1 A は、第 1 多孔質部材 3 1 の 1 つの辺と直交、すなわち、左右方向 X と直交し、上下方向 Y と平行に配されている。

## 【 0 0 4 2 】

第 2 多孔質部材 3 2 は、柔軟性を有する多孔質材料を四角形の板状に形成したものである。第 2 多孔質部材 3 2 は、3 本の第 2 スリット 3 2 A ~ 3 2 C を有する。第 2 スリット 3 2 A ~ 3 2 C は、挿入方向 Z と平行、かつ第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C と交差する方向に形成されている。具体的には、第 2 多孔質部材 3 2 は、第 1 多孔質部材 3 1 と同じものを挿入方向 Z と平行な中心軸回りに 180°回転させて配置したものであり、第 2 スリット 3 2 A ~ 3 2 C は、第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C と同様に、120°の等角度間隔で配され、第 2 多孔質部材 3 2 の中心で繋がっている。これにより、第 2 スリット 3 2 A ~ 3 2 C は、第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C に対して挿入方向 Z と平行な中心軸回りに 180°回転させた位置に配される。第 2 スリット 3 2 A ~ 3 2 C のうち、1 つの第 2 スリット 3 2 A は、第 2 多孔質部材 3 2 の 1 つの辺と直交、すなわち左右方向 X と直交し、上下方向 Y と平行に配されている。

## 【 0 0 4 3 】

第 1 及び第 2 多孔質部材 3 1、3 2 を形成する多孔質材料は、空気などの気体が通過可能とし、かつ体液等の液体及び飛沫を遮断する孔径及び構造を有する多孔質材料であり、例えば樹脂を発泡成形した合成スポンジ、又は海绵体などの天然スポンジを用いる。第 1 多孔質部材 3 1 と第 2 多孔質部材 3 2 とを別々に形成し、挿入方向 Z と平行な中心軸回りに 180°回転させた状態で、接着して一体にしてもよい。このように、同じ多孔質部材を 2 つ使用することでコスト低減を図ることができる。

## 【 0 0 4 4 】

図 8 に示すように、挿入部 3 が第 1 流体抑制部材 2 2 に挿入された場合、第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C、及び第 2 スリット 3 2 A ~ 3 2 C に挿入部 3 の外周面が密着しながら、挿入部 3 が挿入方向 Z に沿って移動する。この際、第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C、及び第 2 スリット 3 2 A ~ 3 2 C の一部には隙間 3 1 G、3 2 G が形成されるが、上述したように第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C に対して、第 2 スリット 3 2 A ~ 3 2 C を、挿入方向 Z と平行な中心軸回りに 180° 回転させて配置しているので、隙間 3 1 G、3 2 G の位置は重ならない。よって、隙間 3 1 G、3 2 G から体液及び飛沫が漏出することを防ぐことができる。

#### 【0045】

さらに、第 1 多孔質部材 3 1 と第 2 多孔質部材 3 2 に対して、一本ずつのスリットではなく、それぞれ 3 本の第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C、及び第 2 スリット 3 2 A ~ 3 2 C を設けたことで、1 本ずつのスリットを設けた場合よりも小さい抵抗で挿入部 3 を挿入することが可能となり、さらに、直径 3 mm 程度の小径の挿入部 3 から直径 16 mm 程度の大径の挿入部 3 まで隙間なく、小さい抵抗で挿入することができる。これにより、密度の高い（空隙の少ない）多孔質材料から第 1 多孔質部材 3 1 と第 2 多孔質部材 3 2 を形成することが可能となり、体液及び飛沫の漏出をさらに抑制することができる。

#### 【0046】

第 1 固定部材 2 3 は、第 1 枠部材 3 3 と、第 2 枠部材 3 4 とから構成されている。第 1 枠部材 3 3 及び第 2 枠部材 3 4 は、例えば軟質樹脂などの軟質素材から形成されている。第 1 枠部材 3 3 は被覆部 2 1 の外側に配設され、第 2 枠部材 3 4 は被覆部 2 1 の内側に配設される。

#### 【0047】

第 1 枠部材 3 3 は、四角形の枠状に形成されている。第 1 枠部材 3 3 は、貫通孔 3 3 A と、開口部 3 3 B と、4 つの嵌合ピン 3 3 C（図 6 参照）とを有する。貫通孔 3 3 A は、第 1 多孔質部材 3 1 の第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C を露呈させる。開口部 3 3 B は、第 1 多孔質部材 3 1 の外周面に合わせて切り欠かれた開口部である。

#### 【0048】

第 2 枠部材 3 4 は、四角形の枠状に形成されている。第 2 枠部材 3 4 は、貫通孔 3 4 A と、開口部 3 4 B と、4 つの嵌合孔 3 4 C（図 6 参照）とを有する。貫通孔 3 4 A は、第 2 多孔質部材 3 2 の第 2 スリット 3 2 A ~ 3 2 C を露呈させる。開口部 3 4 B は、第 2 多孔質部材 3 2 の外周面に合わせて切り欠かれた開口部である。また、第 1 枠部材 3 3 及び第 2 枠部材 3 4 は、被覆部 2 1 と対面する側の面が平面状に形成され、被覆部 2 1 と対面する側とは反対側の面と外周とを繋ぐ緩やかな曲面が形成されている。これにより第 1 枠部材 3 3 及び第 2 枠部材 3 4 が被検者 P や内視鏡 2 の挿入部 3 に引っ掛かることがない。

#### 【0049】

図 9 に示すように、被覆部 2 1 に第 1 流体抑制部材 2 2 を取り付けの場合、挿入口 2 1 F の位置に、第 1 及び第 2 多孔質部材 3 1、3 2 の位置を合わせる。そして、開口部 3 3 B、3 4 B を第 1 及び第 2 多孔質部材 3 1、3 2 の外周面に嵌合させ、かつ第 1 枠部材 3 3 及び第 2 枠部材 3 4 により被覆部 2 1 を挟み込む。これにより、第 1 多孔質部材 3 1 と第 2 多孔質部材 3 2 とが積層された状態で、第 1 枠部材 3 3 と第 2 枠部材 3 4 とが一体に設けられ、かつ、被覆部 2 1 に第 1 流体抑制部材 2 2 が取り付けられる。この場合、第 1 枠部材 3 3 に形成した嵌合ピン 3 3 C を、第 2 枠部材 3 4 に形成した嵌合孔 3 4 C に嵌合させることにより第 1 枠部材 3 3 及び第 2 枠部材 3 4 を互いに固着する。また、第 1 枠部材 3 3 と第 2 枠部材 3 4 とが被覆部 2 1 を挟み込む際、嵌合ピン 3 3 C は、被覆部 2 1 の嵌合孔 2 1 G を貫通する。

#### 【0050】

なお、第 1 枠部材 3 3 及び第 2 枠部材 3 4 を互いに固着する方法としては上記の方法に限らず、例えば、接着または圧着により第 1 枠部材 3 3 及び第 2 枠部材 3 4 を互いに固着してもよい。また、第 1 枠部材 3 3 に嵌合孔を形成し、第 2 枠部材 3 4 に嵌合ピンを形成して両者を嵌合させてもよい。

10

20

30

40

50

## 【 0 0 5 1 】

なお、本実施形態では、第 1 流体抑制部材 2 2 を構成する第 1 多孔質部材 3 1 と第 2 多孔質部材 3 2 とが積層された状態で、第 1 固定部材 2 3 により被覆部 2 1 に取り付けられているが、これに限らず、例えば、第 1 固定部材 2 3 を設けずに、一体に形成した第 1 流体抑制部材 2 2 の外周面に被覆部 2 1 を直接固着させてもよい。

## 【 0 0 5 2 】

第 2 流体抑制部材 2 4 は、第 1 流体抑制部材 2 2 と同様の構成であり、すなわち、第 1 多孔質部材 3 1 と、第 2 多孔質部材 3 2 とから構成され、第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C に対して、第 2 スリット 3 2 A ~ 3 2 C を、挿入方向 Z と平行な中心軸回りに 1 8 0 ° 回転させて配置している。第 2 固定部材 2 5 は、第 1 固定部材 2 3 と同様の構成であり、第 1 10  
枠部材 3 3 と、第 2 枠部材 3 4 とから構成されている。

## 【 0 0 5 3 】

被覆部 2 1 に第 2 流体抑制部材 2 4 を取り付ける場合、吸引チューブ口 2 1 H の位置に、第 1 及び第 2 多孔質部材 3 1、3 2 の位置を合わせる。そして、開口部 3 3 B、3 4 B を第 1 及び第 2 多孔質部材 3 1、3 2 の外周面に嵌合させ、かつ第 1 枠部材 3 3 及び第 2 枠部材 3 4 により被覆部 2 1 を挟み込む。これにより、第 1 流体抑制部材 2 2 と同様に、被覆部 2 1 に第 2 流体抑制部材 2 4 が取り付けられる。なお、これに限らず、第 2 固定部材 2 5 を設けずに、一体に形成した第 2 流体抑制部材 2 4 の外周面に被覆部 2 1 を直接固着させてもよい。あるいは、第 1 流体抑制部材 2 2 及び第 2 流体抑制部材 2 4 のうち、い20  
ずれか一方のみを固定部材を用いて被覆部 2 1 に取り付け、他方は直接取り付けるようにしてもよい。

## 【 0 0 5 4 】

検査衣 1 0 を用いて、ユーザである医師 D が、内視鏡検査を行う際の動作について説明する。図 1 0 に示すように、被検者 P が検査衣 1 0 を着衣した状態で、医師 D は、被検者 P の肛門 A H の位置に第 1 流体抑制部材 2 2 の位置を合わせる。また、この場合、被検者 P は、検査台 T の上で、自身の左側を下に向けた側臥位となっている（図 1 に示す状態）。

## 【 0 0 5 5 】

検査衣 1 0 を着衣した被検者 P に対して、医師 D は、第 1 流体抑制部材 2 2 を通して内視鏡 2 の挿入部 3 を肛門 A H から被検者 P の体内、例えば大腸に挿入する。また、医師 D は、第 2 流体抑制部材 2 4 を通して吸引チューブ 1 5 を検査衣 1 0 の内部に進入させる。30  
なお、この場合、医師 D は、検査衣 1 0 に対して、挿入部 3 及び吸引チューブ 1 5 のうち、どちらを先に挿入してもよい。

## 【 0 0 5 6 】

大腸等の下部消化管に対して内視鏡 2 で検査を行う場合、内視鏡 2 を通して送り込まれる空気や洗浄水と一緒に、腸内の排泄物や血液等の体液及び飛沫が放出されることがあるが、上述したように、検査衣 1 0 では、第 1 流体抑制部材 2 2 を通して挿入部 3 を被検者 P の体内に挿入している。これにより、第 1 流体抑制部材 2 2 が流体の通過を抑制する。よって、検査衣 1 0 の挿入口 2 1 F から体液及び飛沫が漏出することを防ぐことができる。

## 【 0 0 5 7 】

また、第 1 流体抑制部材 2 2 の場合、3 本の第 1 スリット 3 1 A ~ 3 1 C、及び第 2 スリット 3 2 A ~ 3 2 C が第 1 多孔質部材 3 1 と第 2 多孔質部材 3 2 の中心にガイドするため、挿入部 3 を挿入する際、中心を狙う必要が無く、挿入を容易に行うことができる。40

## 【 0 0 5 8 】

また、検査衣 1 0 では、吸引チューブ口 2 1 H を設けており、吸引チューブ 1 5 を検査衣 1 0 の内部に進入させることができるため、吸引チューブ 1 5 に接続した吸引装置 1 6 を作動させることにより、吸引チューブ 1 5 を通して検査衣 1 0 内部の体液を吸引することができる。また、図 1 1 に示すように、吸引チューブ口 2 1 H 及び第 2 流体抑制部材 2 4 は、被検者 P が側臥位の際、下側に位置するように配設されているので、検査衣 1 0 の下部に貯留した体液 F を吸引しやすくなっている。

## 【 0 0 5 9 】

さらにまた、吸引チューブ口 2 1 H に第 2 流体抑制部材 2 4 を設けているため、第 2 流体抑制部材 2 4 が流体の通過を抑制する。よって、検査衣 1 0 の吸引チューブ口 2 1 H から体液及び飛沫が漏出することを防ぐことができる。

【 0 0 6 0 】

また、検査衣 1 0 の被覆部 2 1 を透明又は半透明なシートから形成しているため、検査衣 1 0 の内部の状態を医師 D が認識することができる。これにより、医師 D は、被覆部 2 1 を通して、検査衣 1 0 の内部に体液が貯留している量を視認することができる。また、検査衣 1 0 は、紐通し部 2 1 C に通された紐 2 6 や、ギャザー 2 1 E などによって被検者 P の胸部及び太腿部に密着しているため、胴穴 2 1 A 及び腿穴 2 1 B からの体液及び飛沫の漏出を防ぐことができる。

10

【 0 0 6 1 】

なお、図 1 1 に示すように、被覆部 2 1 の内部に貯留部 3 6 を設けることが好ましい。これにより、被検者 P から放出される体液を貯留部 3 6 で受け止めて貯留させることができる。貯留部 3 6 は、被覆部 2 1 の左右方向 X における左側に配置することが好ましい。これにより、検査衣 1 0 を着衣した被検者 P が、自身の左側を下に向けた側臥位の体勢を取っている場合、貯留部 3 6 が検査衣 1 0 の下部に位置するため、体液を貯留しやすくなっている。貯留部 3 6 は、例えば、皿状の容器形状をしていることが好ましい。

【 0 0 6 2 】

また、図 1 2 に示すように、被覆部 2 1 の内部には、貯留部 3 6 と吸収材 3 7 とを 2 重構造で設けてもよい。吸収材 3 7 は、貯留部 3 6 の内側に配設されている。吸収材 3 7 としては、おむつなどに使用されているいわゆる高分子吸収材を用いることが好ましい。このような構造とすることで、図 1 1 に示す例と同様に体液を受け止めることができ、さらに吸収材 3 7 が体液を吸収して凝固させることができる。よって、検査衣 1 0 の外部へ体液が漏出することをさらに防ぐことができる。なお、これに限らず、吸収材 3 7 を被覆部 2 1 に直接固着させてもよい。

20

【 0 0 6 3 】

また、吸収材 3 7 の少なくとも一部に、液体を吸収することにより色が変化する変色部を設けてもよい。変色部は、例えば、おむつ等を使用されている、乾燥時は透明で液体に濡れると発色する発色性インクにより形成されている。これにより、吸収材 3 7 が体液を吸収した状態を、医師 D が視認しやすい。また、変色部としては、水に濡れると透明又は半透明になる乾燥時不透明な水溶性樹脂層と、その水溶性樹脂層の上に有色インク層を積層したものを吸収材 3 7 に設けてもよい。これにより、液体により濡れた際、水溶性樹脂層が透明になり、その上の有色インク層を視認することができる。また、変色部としては、これらに限らず、水溶液の pH (水素イオン濃度指数) により変色する染料を用いる等、液体を吸収することにより色が変化する材料を用いることが好ましい。

30

【 0 0 6 4 】

また、上述したような、液体を吸収することにより変色する材料から形成された変色部を、吸収材 3 7 とは別に設け、吸収材 3 7 と上記の変色部とを積層して被覆部 2 1 に固着させてもよい。なお、吸収材 3 7 は、被覆部 2 1 に対して着脱可能とすること、例えば、剥離可能な程度の粘着力を有する両面テープで固定されていることが好ましい。これにより、体液を吸収した吸収材 3 7 と、被覆部 2 1 とを分別して廃棄することができる。

40

【 0 0 6 5 】

[ 第 2 実施形態 ]

上記第 1 実施形態では、第 1 流体抑制部材 2 2 と第 2 流体抑制部材 2 4 とは同じ部品から構成され、かつ第 1 固定部材 2 3 と第 2 固定部材とは同じ部品から構成されるものであるが、これに限らず、両者について異なる部品を用いてもよい。図 1 3 及び図 1 4 に示すように、検査衣 5 0 では、被覆部 2 1 と、第 1 流体抑制部材 5 2 と、第 1 固定部材 5 3 と、第 2 流体抑制部材 2 4 と、第 2 固定部材 2 5 とを備え、第 1 流体抑制部材 5 2 及び第 1 固定部材 5 3 は、上記第 1 実施形態の第 1 流体抑制部材 2 2 及び第 1 固定部材 2 3 とは異なる部品から構成される。なお、本実施形態では、第 1 流体抑制部材 2 2 に代えて第 1 流

50

体抑制部材 5 2 を、かつ第 1 固定部材 2 3 に代えて第 1 固定部材 5 3 を用いること以外は、上記第 1 実施形態の検査衣 1 0 と同様の構成であり、同様の部品等については同じ符号を付して説明を省略する。

【 0 0 6 6 】

第 1 流体抑制部材 5 2 は、上記第 1 実施形態の第 1 流体抑制部材 2 2 と同様に、被覆部 2 1 の背面側中央に配されている。第 1 流体抑制部材 5 2 は、被覆部 2 1 に対して第 1 固定部材 5 3 を介して取り付けられている。

【 0 0 6 7 】

一方、第 2 流体抑制部材 2 4 は、上記第 1 実施形態と同様に、被覆部 2 1 に対して第 2 固定部材 2 5 を介して取り付けられている。第 1 流体抑制部材 5 2 及び第 2 流体抑制部材 2 4 は、被覆部 2 1 の上下方向 Y における位置が同じであり、被覆部 2 1 の左右方向 X に並んで配置されている。第 2 流体抑制部材 2 4 は、上記第 1 実施形態と同様に、被覆部 2 1 の左右方向 X における左側に寄せて配置されている。

10

【 0 0 6 8 】

図 1 5 に示すように、第 1 流体抑制部材 5 2 は、第 1 多孔質部材 5 4 と、第 2 多孔質部材 5 5 とを有する。第 1 多孔質部材 5 4 は、柔軟性を有する多孔質材料を円柱状に形成したものである。第 1 多孔質部材 5 4 は、径方向の寸法よりも軸方向の寸法が長い。第 1 多孔質部材 5 4 は、3 本の第 1 スリット 5 4 A ~ 5 4 C を有する。第 1 スリット 5 4 A ~ 5 4 C は、Y 字状に配される。具体的には、第 1 スリット 5 4 A ~ 5 4 C は、1 2 0 ° の等角度間隔で配され、第 1 多孔質部材 5 4 の中心で繋がっている。

20

【 0 0 6 9 】

第 2 多孔質部材 5 5 は、柔軟性を有する多孔質材料を四角形の板状に形成したものである。第 2 多孔質部材 5 5 は、3 本の第 2 スリット 5 5 A ~ 5 5 C を有する。第 2 スリット 5 5 A ~ 5 5 C は、挿入方向 Z と平行、かつ第 1 スリット 5 4 A ~ 5 4 C と交差する方向に形成されている。具体的には、第 2 スリット 5 5 A ~ 5 5 C は、第 1 スリット 5 4 A ~ 5 4 C と同様に、1 2 0 ° の等角度間隔で配され、第 2 多孔質部材 5 5 の中心で繋がっている。第 2 スリット 5 5 A ~ 5 5 C は、第 1 スリット 5 4 A ~ 5 4 C に対して挿入方向 Z と平行な中心軸回りに 1 8 0 ° 回転させた位置に配される。

【 0 0 7 0 】

第 1 多孔質部材 5 4 及び第 2 多孔質部材 5 5 を形成する多孔質材料は、上記第 1 実施形態の第 1 及び第 2 多孔質部材 3 1、3 2 を形成する多孔質材料と同様である。第 1 多孔質部材 5 4 と第 2 多孔質部材 5 5 とを別々に形成し、第 1 スリット 5 4 A ~ 5 4 C に対して第 2 スリット 5 5 A ~ 5 5 C を、挿入方向 Z と平行な中心軸回りに 1 8 0 ° 回転させた状態で、接着等により一体にすることが好ましい。

30

【 0 0 7 1 】

第 1 多孔質部材 5 4 は、被覆部 2 1 に取り付けられた際、第 2 多孔質部材 3 2 よりも左右方向 X 及び上下方向 Y における寸法が小さく、第 2 多孔質部材 3 2 に対して挿入方向 Z に突出している（図 1 5 参照）。よって、被検者 P が被覆部 2 1 を着衣した際、すなわち被覆部 2 1 が被検者 P を覆った際、第 1 多孔質部材 5 4 は、被覆部 2 1 の外側に突出する凸部を形成している。この凸部を有する形状にしたことで、第 1 流体抑制部材 5 2 は、上記第 1 実施形態の第 1 流体抑制部材 2 2 よりも挿入方向 Z について寸法を長く形成することができる。よって、流体の通過を十分に抑制することが可能となり、かつ挿入部 3 をスムーズに挿入することができる。

40

【 0 0 7 2 】

第 1 固定部材 5 3 は、第 1 枠部材 5 6 と、第 2 枠部材 5 7 と、筒状部材 5 8 とから構成されている。第 1 枠部材 5 6、第 2 枠部材 5 7 及び筒状部材 5 8 は、例えば軟質樹脂などの軟質素材から形成されている。第 1 枠部材 5 6 及び筒状部材 5 8 は、被覆部 2 1 の外側に配設され、第 2 枠部材 5 7 は被覆部 2 1 の内側に配設される。

【 0 0 7 3 】

第 1 枠部材 5 6 は、四角形の枠状に形成されている。第 1 枠部材 5 6 は、貫通孔 5 6 A

50

と、開口部 5 6 B と、4 つの嵌合ピン 5 6 C ( 図 1 5 参照 ) とを有する。貫通孔 5 6 A は、内径を筒状部材 5 8 の外径に合わせた円形状の貫通孔である。開口部 5 6 B は、第 2 多孔質部材 5 5 の外周面に合わせて切り欠かれた開口部である。また、貫通孔 5 6 A の周縁は、挿入方向 Z において周囲よりも一段凸となる凸部 5 6 D が形成されている。

【 0 0 7 4 】

筒状部材 5 8 は、挿入部 3 が挿入される管路 5 8 A を有する円筒形状に形成されている。管路 5 8 A は、内径を第 1 多孔質部材 5 4 の外径に合わせた貫通孔である。また、筒状部材 5 8 は、透明な樹脂であることが好ましい。挿入部 3 の挿入状態を外部から視認可能とするためである。筒状部材 5 8 は、下端部の外周面を第 1 枠部材 5 6 の貫通孔 5 6 A と嵌合させることにより第 1 枠部材 5 6 と互いに固着する。これにより、筒状部材 5 8 は、被検者 P が被覆部 2 1 を着衣した際、すなわち被覆部 2 1 が被検者 P を覆った際、被覆部 2 1 の外側に延出する。

10

【 0 0 7 5 】

第 2 枠部材 5 7 は、四角形の枠状に形成されている。第 2 枠部材 5 7 は、貫通孔 5 7 A と、開口部 5 7 B と、4 つの嵌合孔 5 7 C ( 図 6 参照 ) とを有する。貫通孔 5 7 A は、第 2 多孔質部材 5 5 の第 2 スリット 5 5 A ~ 5 5 C を露呈させる。開口部 5 7 B は、第 2 多孔質部材 5 5 の外周面に合わせて切り欠かれた開口部である。また、第 1 枠部材 5 6 及び第 2 枠部材 5 7 は、被覆部 2 1 と対面する側の面が平面状に形成され、被覆部 2 1 と対面する側とは反対側の面と外周とを繋ぐ緩やかな曲面が形成されている。これにより第 1 枠部材 5 6 及び第 2 枠部材 5 7 が被検者 P や内視鏡 2 の挿入部 3 に引っ掛かることがない。

20

【 0 0 7 6 】

被覆部 2 1 に第 1 流体抑制部材 5 2 を取り付けの場合、挿入口 2 1 F の位置に第 1 多孔質部材 5 4 及び第 2 多孔質部材 5 5 の位置を合わせる。そして、筒状部材 5 8 の管路 5 8 A を第 1 多孔質部材 5 4 の外周面に、開口部 5 6 B 、5 7 B を第 2 多孔質部材 5 5 の外周面に嵌合させ、かつ第 1 枠部材 5 6 及び第 2 枠部材 5 7 により被覆部 2 1 を挟み込む。これにより、第 1 多孔質部材 5 4 と第 2 多孔質部材 5 5 とが積層された状態で、第 1 枠部材 5 6 と第 2 枠部材 5 7 とが一体に設けられ、かつ、被覆部 2 1 に第 1 流体抑制部材 5 2 が取り付けられる。

【 0 0 7 7 】

この場合、第 1 枠部材 5 6 に形成した嵌合ピン 5 6 C を、第 2 枠部材 5 7 に形成した嵌合孔 5 7 C に嵌合させることにより第 1 枠部材 5 6 及び第 2 枠部材 5 7 を互いに固着する。また、第 1 枠部材 5 6 と第 2 枠部材 5 7 とが被覆部 2 1 を挟み込む際、嵌合ピン 5 6 C は、被覆部 2 1 の嵌合孔 2 1 G を貫通する。

30

【 0 0 7 8 】

なお、第 1 枠部材 5 6 及び第 2 枠部材 5 7 を互いに固着する方法としては上記の方法に限らず、例えば、接着または圧着により第 1 枠部材 5 6 及び第 2 枠部材 5 7 を互いに固着してもよい。また、第 1 枠部材 5 6 に嵌合孔を形成し、第 2 枠部材 5 7 に嵌合ピンを形成して両者を嵌合させてもよい。

【 0 0 7 9 】

検査衣 5 0 を用いて、ユーザである医師 D が、内視鏡検査を行う際の動作について説明する。検査衣 5 0 を着衣した被検者 P に対して、医師 D は、第 1 流体抑制部材 2 2 を通して内視鏡 2 の挿入部 3 を肛門 A H から被検者 P の体内、例えば大腸に挿入する。この際、筒状部材 5 8 によって挿入部 3 がガイドされ、かつ筒状部材 5 8 の内部を視認することができるため、挿入を容易に行うことができる。また、医師 D は、第 2 流体抑制部材 2 4 を通して吸引チューブ 1 5 を検査衣 5 0 の内部に進入させる。

40

【 0 0 8 0 】

検査衣 5 0 では、第 1 流体抑制部材 5 2 が流体の通過を抑制する。第 1 流体抑制部材 5 2 は、上記第 1 実施形態の流体抑制部材 2 2 よりも挿入方向 Z の寸法が長いため、検査衣 5 0 の挿入口 2 1 F から体液及び飛沫が漏出することをさらに確実に防ぐことができる。また、検査衣 5 0 では、吸引チューブ口 2 1 H を設けており、吸引チューブ 1 5 を通して

50

検査衣 10 内部の体液等を吸引することができる。また、第 2 流体抑制部材 24 を設けているため、吸引チューブ口 21 H から体液及び飛沫が漏出することを防ぐことができる。

【0081】

また、図示は省略しているが、上記第 1 実施形態の検査衣 10 と同様に、本実施形態の検査衣 50 においても、被覆部 21 の内部に貯留部 36 を設けることが好ましい。また、被覆部 21 の内部には、貯留部 36 と吸収材 37 とを 2 重構造で設けてもよい。なお、吸収材 37 を被覆部 21 に直接固着させてもよい。吸収材 37 は被覆部 21 に対して着脱可能とすることが好ましい。また、吸収材 37 の少なくとも一部に、液体を吸収することにより色が変化する変色部を用いることが好ましい。また、変色部を、吸収材 37 とは別に設け、吸収剤と変色部とを積層して被覆部 21 に固着させてもよい。

10

【0082】

[第 1 変形例]

また、上記第 1 及び第 2 実施形態では、内視鏡検査の後、被検者 P が検査衣 10、50 を脱衣することについては考慮されていないが、図 16 に示す変形例では、被覆部 21 の側面及び股部分に、脆弱部 59 を設けている。脆弱部 59 はユーザの力（一般的な人間の力）で切り離すことが可能なように、被覆部 21 の一部分をミシン目のように脆弱に形成した部分である。そして、被検者 P、医師 D、または介助者が脆弱部 59 に沿って被覆部 21 を切断すると、図 17 に示すように、検査衣 10、50 は、前面部分 10A と、後面部分 10B とに容易に分割することができるため、被検者 P は、検査衣 10、50 を容易に脱衣することができる。なお、このような脆弱部 59 としては、被覆部 21 をユーザの力で切り離しやすいように加工した部分を設けていればよく、例えば、被覆部 21 の厚みを一部分だけ薄くした部分、あるいは粘着力の弱い接着剤で接着した部分でもよい。

20

【0083】

[第 2 変形例]

また、上記第 1 及び第 2 実施形態では、第 1 及び第 2 流体抑制部材として、Y 字状に配された 3 つのスリットが形成された第 1 及び第 2 多孔質部材から構成する例を上げているが、これに限らず、図 18 に示す変形例では、流体抑制部材 60 として、1 つずつのスリットが形成された第 1 及び第 2 多孔質部材 61、62 から構成している。

【0084】

第 1 多孔質部材 61 は、柔軟性を有する多孔質材料を四角形の板状に形成したものである。第 1 多孔質部材 61 は、第 1 スリット 61A を有する。第 1 多孔質部材 61 は、第 1 枠部材 33 の開口部 33B と嵌合する。第 1 スリット 61A は、左右方向 X と平行、かつ挿入部 3 の挿入方向 Z と平行に形成されている。

30

【0085】

図 19 に示すように、第 2 多孔質部材 62 は、柔軟性を有する多孔質材料を四角形の板状に形成したものである。第 2 多孔質部材 62 は、第 2 スリット 62A を有する。第 2 多孔質部材 62 は、第 2 枠部材 34 の開口部 34B と嵌合する。第 2 スリット 62A は、挿入方向 Z と平行、かつ第 1 スリット 61A と交差する方向に形成されている。さらに詳しくは、第 2 スリット 62A は、挿入方向 Z と平行、かつ上下方向 Y と平行に形成されている。このように、第 1 スリット 61A と第 2 スリット 62A とが交差しているので、挿入部 3 に対する隙間の位置が重ならない。よって、流体抑制部材 60 は、流体の通過を抑制することができ、流体抑制部材 60 から体液及び飛沫が漏出することを防ぐことができる。

40

【0086】

なお、本変形例においては、第 2 多孔質部材 62 は、第 1 多孔質部材 61 と同じものを挿入方向 Z と平行な中心軸回りに 90° 回転させて配置したものでもよい。なお、この場合、第 1 及び第 2 多孔質部材 61、62 の外形状はともに正方形であることが好ましい。

【0087】

第 1 及び第 2 多孔質部材 61、62 を形成する多孔質材料は、上記第 1 実施形態の第 1 及び第 2 多孔質部材 31、32 を形成する多孔質材料と同様である。第 1 多孔質部材 61 と第 2 多孔質部材 62 とを別々に形成し、第 1 スリット 61A に対して第 2 スリット 62

50

Aを、交差する方向に配置した状態で、接着等により一体にすることが好ましい。

【0088】

なお、流体抑制部材60は、上記第1及び第2実施形態における第1及び第2流体抑制部材のいずれに用いてもよい。また、上記第1及び第2実施形態と同様に、第1及び第2固定部材によって、被覆部21に取り付けられることが好ましい。また、上記第2実施形態のように、第1及び第2多孔質部材61、62の一方について挿入方向Zの寸法を長く形成してもよいし、一方を円柱状に形成してもよい。さらにまた、第1及び第2多孔質部材61、62の寸法に合わせて、第1及び第2固定部材の挿入方向Zの寸法を長くしてもよい。

【0089】

10

[第3変形例]

上記第1及び第2実施形態では、第1及び第2流体抑制部材22、24として、スリットが形成された第1及び第2多孔質部材31、32等から構成される例を示したが、本発明はこれに限らず、流体抑制部材としては、挿入部3が挿入されている状態、挿入されていない状態のいずれにおいても流体の通過を抑制することができるものであればよい。図20においては、ダックビル弁66と、薄板部材67とを有する流体抑制部材65の構成を示している。図21に示すように、流体抑制部材65は、ダックビル弁66と薄板部材67とが積層された状態で被覆部21の挿入口21Fに取り付けられている。

【0090】

図20(A)に示すように、ダックビル弁66は、内視鏡用挿入ガイド等に用いる周知の構成であり、挿入方向Zに突出する複数のリップ部66Aを有する。ダックビル弁66は、ゴム等の弾性部材から形成されている。これにより、ダックビル弁66は、挿入部3が挿通されていない状態において、弾性力によりリップ部66A同士が密着して閉じ状態となる。すなわち、挿入口21Fにおける流体の通過を抑制する。なお、ダックビル弁66に挿入部3が挿通された場合、弾性力に抗してリップ部66Aが開き状態となり、挿入部3の挿入を許容する。

20

【0091】

一方、図20(B)に示すように、薄板部材67は、挿入部3の外径に合わせた内径の貫通孔67Aを有している。薄板部材67は、ゴム等の弾性部材から形成されている。これにより、薄板部材67は、挿入部3が挿通されている状態において、貫通孔67Aの内周面が挿入部3の外周面に密着する。すなわち、挿入口21Fにおける流体の通過を抑制する。

30

【0092】

この変形例では、流体抑制部材65を構成するダックビル弁66及び薄板部材67が円形状の外形を有することから、被覆部21の挿入口21Fに取り付けるための第1固定部材23として、円形状の第1枠部材68、第2枠部材69を用いることが好ましい(図21参照)。なお、第1及び第2枠部材68、69は、貫通孔68A、69A及び開口部68B、69Bが円形状であること以外は、上記第1実施形態の第1及び第2枠部材33、34と同様であり、説明を省略する。

【0093】

40

図22に示すように、上記第1実施形態と同様、開口部68B、69Bをダックビル弁66及び薄板部材67の外周面に嵌合させ、かつ第1及び第2枠部材68、69により被覆部21を挟み込む。これにより、ダックビル弁66と薄板部材67とが積層された状態で、第1枠部材68と第2枠部材69とが一体に設けられ、かつ、被覆部21に流体抑制部材65が取り付けられる。

【0094】

以上の構成により、流体抑制部材65を通して挿入部3が挿入されても、あるいは、挿入部3が挿入されていなくても、流体の通過を抑制することができ、流体抑制部材65を通して検査衣の内部から外部へ体液及び飛沫が漏出することを防ぐことができる。なお、流体抑制部材65は、上記第1及び第2実施形態における第1及び第2流体抑制部材のい

50

ずれに用いてもよい。また、第２実施形態のように、第１及び第２固定部材の一方について挿入方向Ｚの寸法を長く形成してもよい。

【００９５】

〔第３実施形態〕

上記第１及び第２実施形態及び各種変形例では、パンツ型の被覆部を用いる例を上げているが、本発明はこれに限るものではない。図２３に示すように、検査衣７０は、被覆部７１と、第１流体抑制部材２２と、第１固定部材２３と、粘着テープ７２とを備える。なお、図２３は、被検者Ｐが内視鏡検査を受ける前の状態であり、被検者Ｐは検査衣７０を着衣し、検査台Ｔの上で自身の左側を下にした側臥位となっている。

【００９６】

被覆部７１は、被検体である被検者Ｐに巻き付け可能な平面状のシートで形成されている。被覆部７１は、上記第１及び第２実施形態の被覆部２１と同様に、透明又は半透明な部材であり、例えば、透明又は半透明かつ柔軟性を有するビニール製のシートから形成されている。本実施形態では、被覆部７１は、被検者Ｐの胸部から大腿部までの少なくとも一部を覆う大きさを有している。なお、被覆部７１によって覆われていない被検者Ｐの上半身については、検査衣７０とは別に上半身用の検査衣を着衣してもよい。

【００９７】

図２４に示すように、被覆部７１は、被検者Ｐに巻き付けていない場合、展開状態とすることが可能であり、展開状態にした場合、四角形状の外形を有するシートである。第１流体抑制部材２２は、被覆部７１の中央に位置する。被覆部７１の一辺には、保持部材としての粘着テープ７２が貼着される。粘着テープ７２は、被覆部７１を展開状態にした場合、被覆部７１の一辺から少なくとも一部分が突出するように貼着されている。

【００９８】

被覆部７１は、上記第１及び第２実施形態における被覆部２１と同様に、挿入口２１Ｆが形成されている（図示せず）。被覆部７１に第１流体抑制部材２２を取り付ける場合、挿入口２１Ｆの位置に、第１及び第２多孔質部材３１、３２の位置を合わせる。そして、開口部３３Ｂ、３４Ｂを第１及び第２多孔質部材３１、３２の外周面に嵌合させ、かつ第１枠部材３３及び第２枠部材３４により被覆部７１を挟み込む。これにより、上記第１及び第２実施形態と同様に、被覆部７１に第１流体抑制部材２２が取り付けられる。

【００９９】

図２５を参照して、被検者Ｐに検査衣７０を着衣させる方法について、具体的には、被検者Ｐに被覆部７１を巻き付ける方法、粘着テープ７２を貼着する方法について説明する。図２５（Ａ）に示すように、医師Ｄ又は介助者は、被検者Ｐに対して被覆部７１の一辺であり、粘着テープ７２が貼着されていない一辺側から、被検者Ｐの胸部及び大腿部に被覆部７１を巻き付ける。この場合、被覆部７１を被検者Ｐの左右方向Ｘと平行に配することが好ましい。また、図示は省略するが、肛門ＡＨの位置に第１流体抑制部材２２の位置を合わせることが好ましい。

【０１００】

次に、図２５（Ｂ）に示すように、被検者Ｐに対して、粘着テープ７２が貼着されている一辺側から、被検者Ｐの胸部及び大腿部に被覆部７１を巻き付ける。そして、粘着テープ７２において、被覆部７１の一辺から突出している部分を被覆部７１に貼着する。これにより、粘着テープ７２は、被覆部７１が被検者Ｐに巻き付けられた状態を保持することができる。

【０１０１】

検査衣７０を着衣した被検者Ｐに対して、上記第１及び第２実施形態と同様に、医師Ｄは、挿入口２１Ｆに位置する第１流体抑制部材２２を通して内視鏡２の挿入部３を肛門ＡＨから被検者Ｐの体内、例えば大腸に挿入する。上記第１及び第２実施形態と同様に、第１流体抑制部材２２が流体の通過を抑制する。よって、検査衣７０の挿入口２１Ｆから体液及び飛沫が漏出することを防ぐことができる。

【０１０２】

10

20

30

40

50

## 〔第４変形例〕

上記第３実施形態では、被覆部７１に対して、挿入用の第１流体抑制部材２２のみを設けているが、これに限らず、図２６に示すように、吸引用の第２流体抑制部材２４を設けてもよい。この場合、被覆部７１には、吸引チューブ口２１Ｈを形成しており、上記第１及び第２実施形態と同様に、第２固定部材２５で被覆部７１を挟み込み、吸引チューブ口２１Ｈの位置に、第２流体抑制部材２４が取り付けられることが好ましい。また、第２流体抑制部材２４は、上記第１及び第２実施形態と同様に、被覆部７１の左右方向Ｘにおいて左側に寄せて配置されていることが好ましい。

## 【０１０３】

また、被覆部７１に取り付ける第１抑制部材及び第１固定部材としては、第２実施形態における第１流体抑制部材５２及び第１固定部材５３でもよい。これにより、上記第２実施形態と同様に、筒状部材５８によって挿入部３がガイドされ、かつ筒状部材５８の内部を視認することができるため、挿入を容易に行うことができる。また、第１流体抑制部材５２は挿入方向Ｚの寸法が長いため、流体の通過を十分に抑制することが可能となり、かつ挿入部３をスムーズに挿入することができる。

## 【０１０４】

また、図２６に示すように、被覆部７１は、被検者Ｐに巻き付けた場合、すなわち被覆部７１が被検者Ｐを覆った際に、被検者Ｐの胸部に位置する箇所にギャザー７１Ａを設けていることが好ましい。ギャザー７１Ａは、上記第１実施形態における被覆部２１のギャザー２１Ｅと同様に収縮性を有する。これにより、被覆部７１が被検者Ｐの胸部に密着するため、被検者Ｐの胸部周囲からの体液及び飛沫の漏出を防ぐことができる。

## 【０１０５】

## 〔第５変形例〕

また、上記第３実施形態では、被覆部７１は、展開状態にした場合、四角形状の外形を有するシートであるが、これに限らず、図２７に示すように、被覆部７１は、展開状態にした場合、Ｔ字状の外形を有するシートでもよい。この場合、第１流体抑制部材２２は、被覆部７１の中央付近、具体的には、被覆部７１のＴ字状を形成する横線部分７１Ｂと縦線部分７１Ｃとが交差する部分に位置することが好ましい。

## 【０１０６】

被覆部７１のＴ字状を形成する横線部分７１Ｂの両端部には、粘着テープ７２が貼着される。粘着テープ７２は、被覆部７１を展開状態にした場合、横線部分７１Ｂの両端部から少なくとも一部分が突出するように貼着されている。

## 【０１０７】

図２８及び図２９を参照して被検者Ｐに検査衣７０を着衣させる方法について、具体的には、被検者Ｐに被覆部７１を巻き付ける方法、粘着テープ７２を貼着する方法について説明する。図２８（Ａ）に示すように、医師Ｄ又は介助者は、被検者Ｐの背面側に検査衣７０の被覆部７１を配する。この場合、横線部分７１Ｂを被検者Ｐの左右方向Ｘと平行に、縦線部分７１Ｃを被検者Ｐの上下方向Ｙと平行に配し、肛門ＡＨの位置に第１流体抑制部材２２の位置を合わせることが好ましい。次に図２８（Ｂ）に示すように、被検者Ｐの脚の間に縦線部分７１Ｃを通して、被検者Ｐの股部から胸部に縦線部分７１Ｃを巻き付ける。

## 【０１０８】

縦線部分７１Ｃを巻き付けた後、図２９（Ａ）に示すように、被検者Ｐに対して、横線部分７１Ｂの一方の端部から、被検者Ｐの胸部及び大腿部に被覆部７１を巻き付ける。そして、粘着テープ７２において、横線部分７１Ｂの端部から突出している部分を被覆部７１に貼着する。次に、図２９（Ｂ）に示すように、被検者Ｐに対して、横線部分７１Ｂの他方の端部から、被検者Ｐの胸部及び大腿部に被覆部７１を巻き付ける。そして、粘着テープ７２において、横線部分７１Ｂの端部から突出している部分を被覆部７１に貼着する。これにより、粘着テープ７２は、被覆部７１が被検者Ｐに巻き付けられた状態を保持することができる。

10

20

30

40

50

## 【 0 1 0 9 】

以上のように、被検者 P が検査衣 7 0 を着衣した後、上記第 3 実施形態と同様に、医師 D は、挿入口 2 1 F に位置する第 1 流体抑制部材 2 2 を通して内視鏡 2 の挿入部 3 を肛門 A H から被検者 P の体内、例えば大腸に挿入する。上記第 3 実施形態と同様に、第 1 流体抑制部材 2 2 が流体の通過を抑制する。よって、検査衣 7 0 の挿入口 2 1 F から体液及び飛沫が漏出することを防ぐことができる。さらに、被検者 P の股部から胸部に掛けて被覆部 7 1 の縦線部分 7 1 C が覆っているので、上記第 3 実施形態よりも体液及び飛沫の漏出を抑制することができる。

## 【 0 1 1 0 】

なお、上記第 3 実施形態及びその変形例においても、上記第 1 及び第 2 実施形態と同様に被検者 P から放出される体液を貯留する貯留部 3 6、吸収材 3 7、及び変色部のいずれかを検査衣 7 0 に設けてもよい。なお、この場合、上記第 1 実施形態と同様に、検査衣 7 0 の左右方向 X における左側寄りに配置することが好ましい。

10

## 【 0 1 1 1 】

上記第 3 実施形態及びその変形例では、被覆部 7 1 が被検者 P に巻き付けられた状態を保持する保持部材として粘着テープ 7 2 を例示しているが、本発明はこれに限らず、保持部材は、係止部材、拘束部材及び被覆部材のいずれか 1 種でもよい。保持部材としての係止部材は、例えば、係止爪と係止孔からなる係止構造、衣服に用いるようなボタンとボタン穴、雄ボタンと雌ボタンとが嵌合する嵌合構造などにより、被覆部 7 1 の少なくとも一部を係止する構成が好ましい。また、保持部材としての拘束部材は、被検者 P に巻き付けられた状態の被覆部 7 1 の周囲を拘束する紙テープや輪ゴムなどが好ましい。また、保持部材としての被覆部材は、被検者 P に巻き付けられた状態の被覆部 7 1 全体を覆うような袋状のものが好ましい。

20

## 【 0 1 1 2 】

上記各実施形態における流体抑制部材 2 2、2 4、5 2 では、第 1 多孔質部材 3 1、5 4 及び第 2 多孔質部材 3 2、5 5 にそれぞれ 3 本のスリットを設けたがこれに限らず、4 本以上のスリットを設けてもよい。なお、4 本以上のスリットを設けた場合も、これらのスリットは等角度間隔で配され、第 1 多孔質部材 3 1 及び第 2 多孔質部材 3 2 の中心で繋がる配置にすることが好ましい。

## 【 0 1 1 3 】

また、上記各実施形態では、吸引用の第 2 流体抑制部材 2 4、6 0、6 5 等を被覆部 2 1、7 1 の左右方向 X における左側に寄せて配置しているが、これに限らず、右側に寄せて配置してもよい（例えば、図 4 の 2 点鎖線で示す位置）。これにより、被検者 P の左側、すなわち側臥位の姿勢を取った場合の上側に、吸引用の第 2 流体抑制部材 2 4、6 0、6 5 等が位置する。よって、被覆部の内部に貯留する体液が多い場合、あるいは被検者 P の下側から吸引チューブを挿入しにくい場合などに効果的である。

30

## 【 0 1 1 4 】

また、上記各実施形態では、内視鏡検査を行う際に、吸引チューブ 1 5 を検査衣の内部に挿入して体液の吸引を行っているが、これに限らず、内視鏡検査の後に、吸引用の第 2 流体抑制部材 2 4、6 0、6 5 等に吸引チューブ 1 5 を挿入して吸引を行ってもよい。なお、この場合、内視鏡検査の後、挿入部 3 を被検者 P 及び第 1 流体抑制部材 2 2、5 2、6 0、6 5 等から抜去し、第 1 流体抑制部材に洗浄液を注入するチューブを挿入して、検査衣 1 0、7 0 等の内部に洗浄液（例えば、水等）を注入した状態とし、かつ、吸引用の第 2 流体抑制部材 2 4、6 0、6 5 等に吸引チューブ 1 5 を挿入して吸引を行ってもよい。あるいは、検査衣 1 0、7 0 等に洗浄液注入用の注入口を別途設け、この注入口にも上記各実施形態のような流体抑制部材を設けてもよい。

40

## 【 0 1 1 5 】

また、上記各実施形態では、被覆部 2 1、7 1 を透明又は半透明なビニール製のシートから形成する例を上げているが、これに限らず、例えば、ビニール以外のポリエチレン、ポリエステル製のシート等でもよく、おむつの素材を含む紙、布などから形成してもよい。

50

。また、被覆部 2 1、7 1 の全体を透明又は半透明にするのではなく、被覆部 2 1、7 1 の後面部分、又は流体抑制部材の付近の部分だけを透明または半透明とし、他の部分は不透明としてもよい。

【符号の説明】

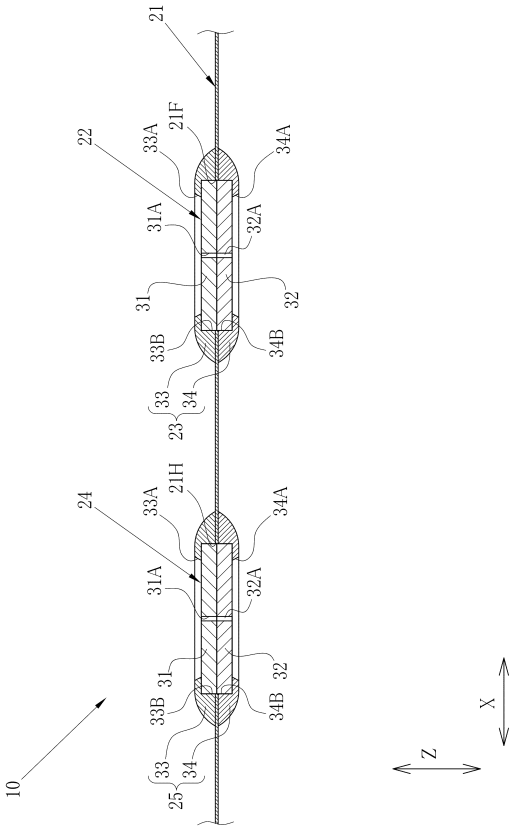
【0 1 1 6】

|               |                     |    |
|---------------|---------------------|----|
| 2             | 内視鏡                 |    |
| 3             | 挿入部                 |    |
| 4             | 操作部                 |    |
| 5             | ユニバーサルコード           |    |
| 5 A           | コネクタ                | 10 |
| 1 0           | 内視鏡検査用検査衣           |    |
| 1 0 A         | 前面部分                |    |
| 1 0 B         | 後面部分                |    |
| 1 1           | プロセッサ装置             |    |
| 1 2           | 光源装置                |    |
| 1 3           | ディスプレイ              |    |
| 1 4           | UI (User InterFace) |    |
| 1 5           | 吸引チューブ              |    |
| 1 6           | 吸引装置                |    |
| 2 1           | 被覆部                 | 20 |
| 2 1 A         | 胴穴                  |    |
| 2 1 B         | 腿穴                  |    |
| 2 1 C         | 紐通し部                |    |
| 2 1 D         | 開口部                 |    |
| 2 1 E         | ギャザー                |    |
| 2 1 F         | 挿入口                 |    |
| 2 1 G         | 嵌合孔                 |    |
| 2 1 H         | 吸引チューブ口             |    |
| 2 2           | 第 1 流体抑制部材          |    |
| 2 3           | 第 1 固定部材            | 30 |
| 2 4           | 第 2 流体抑制部材          |    |
| 2 5           | 第 2 固定部材            |    |
| 2 6           | 紐                   |    |
| 2 7           | 紐留め具                |    |
| 3 1           | 第 1 多孔質部材           |    |
| 3 1 A ~ 3 1 C | 第 1 スリット            |    |
| 3 1 G         | 隙間                  |    |
| 3 2           | 第 2 多孔質部材           |    |
| 3 2 A ~ 3 2 C | 第 2 スリット            |    |
| 3 2 G         | 隙間                  | 40 |
| 3 3           | 第 1 枠部材             |    |
| 3 3 A         | 貫通孔                 |    |
| 3 3 B         | 開口部                 |    |
| 3 3 C         | 嵌合ピン                |    |
| 3 4           | 第 2 枠部材             |    |
| 3 4 A         | 貫通孔                 |    |
| 3 4 B         | 開口部                 |    |
| 3 4 C         | 嵌合孔                 |    |
| 3 6           | 貯留部                 |    |
| 3 7           | 吸収材                 | 50 |

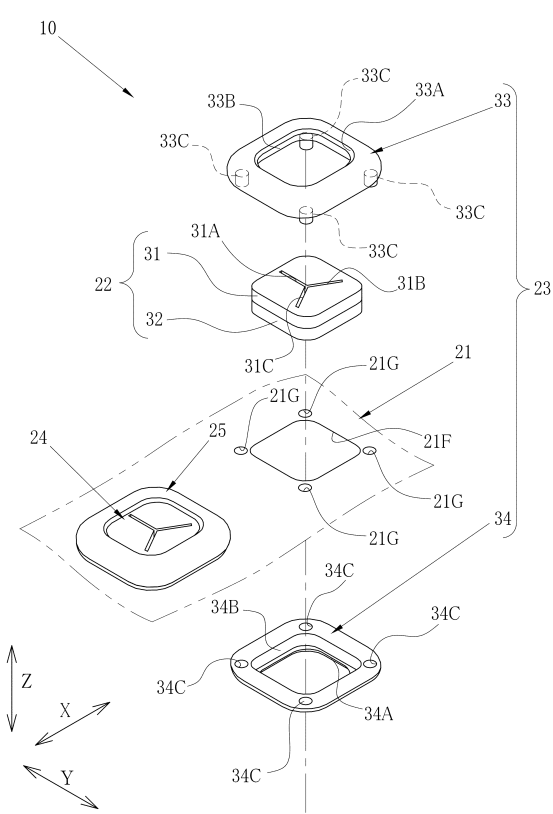
|               |            |    |
|---------------|------------|----|
| 5 0           | 検査衣        |    |
| 5 2           | 第 1 流体抑制部材 |    |
| 5 3           | 第 1 固定部材   |    |
| 5 4           | 第 1 多孔質部材  |    |
| 5 4 A ~ 5 4 C | 第 1 スリット   |    |
| 5 5           | 第 2 多孔質部材  |    |
| 5 5 A ~ 5 5 C | 第 2 スリット   |    |
| 5 6           | 第 1 枠部材    |    |
| 5 6 A         | 貫通孔        |    |
| 5 6 B         | 開口部        | 10 |
| 5 6 C         | 嵌合ピン       |    |
| 5 6 D         | 凸部         |    |
| 5 7           | 第 2 枠部材    |    |
| 5 7 A         | 貫通孔        |    |
| 5 7 B         | 開口部        |    |
| 5 7 C         | 嵌合孔        |    |
| 5 8           | 筒状部材       |    |
| 5 8 A         | 管路         |    |
| 5 9           | 脆弱部        |    |
| 6 0           | 流体抑制部材     | 20 |
| 6 1           | 第 1 多孔質部材  |    |
| 6 1 A         | 第 1 スリット   |    |
| 6 2           | 第 2 多孔質部材  |    |
| 6 2 A         | 第 2 スリット   |    |
| 6 5           | 流体抑制部材     |    |
| 6 6           | ダックビル弁     |    |
| 6 6 A         | リップ部       |    |
| 6 7           | 薄板部材       |    |
| 6 7 A         | 貫通孔        |    |
| 6 8           | 第 1 枠部材    | 30 |
| 6 8 A         | 貫通孔        |    |
| 6 8 B         | 開口部        |    |
| 6 9           | 第 2 枠部材    |    |
| 6 9 A         | 貫通孔        |    |
| 6 9 B         | 開口部        |    |
| 7 0           | 検査衣        |    |
| 7 1           | 被覆部        |    |
| 7 1 A         | ギャザー       |    |
| 7 1 B         | 横線部分       |    |
| 7 1 C         | 縦線部分       | 40 |
| 7 2           | 粘着テープ      |    |
| A H           | 肛門         |    |
| C L 0         | 中心線        |    |
| C L 1         | 中心線        |    |
| C L 2         | 中心線        |    |
| D             | 医師         |    |
| F             | 体液         |    |
| P             | 被検者        |    |
| T             | 検査台        |    |
| X             | 左右方向       | 50 |



【図 5】



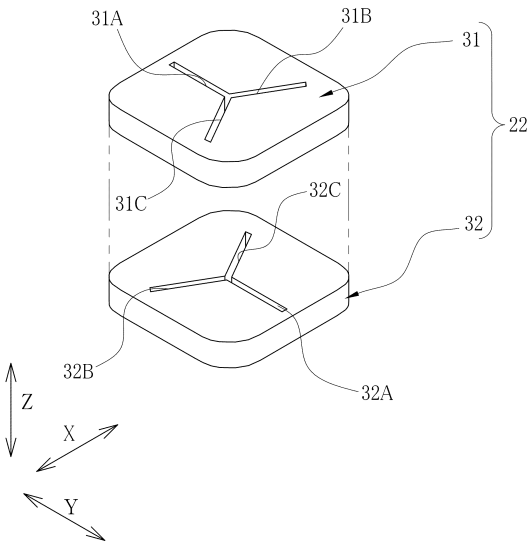
【図 6】



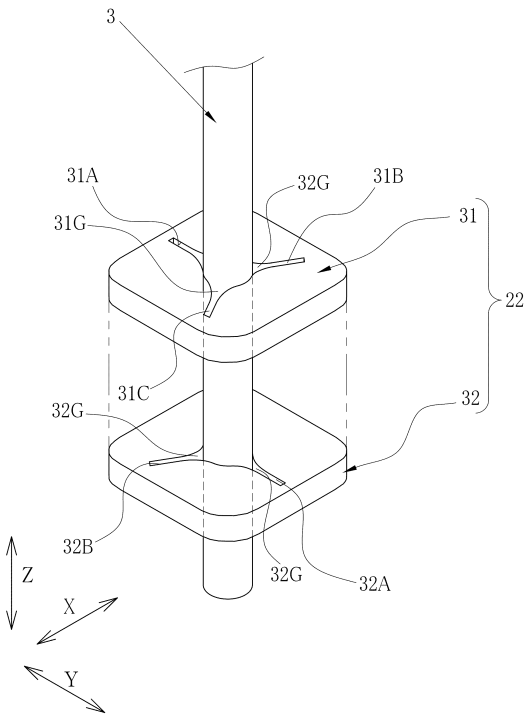
10

20

【図 7】



【図 8】

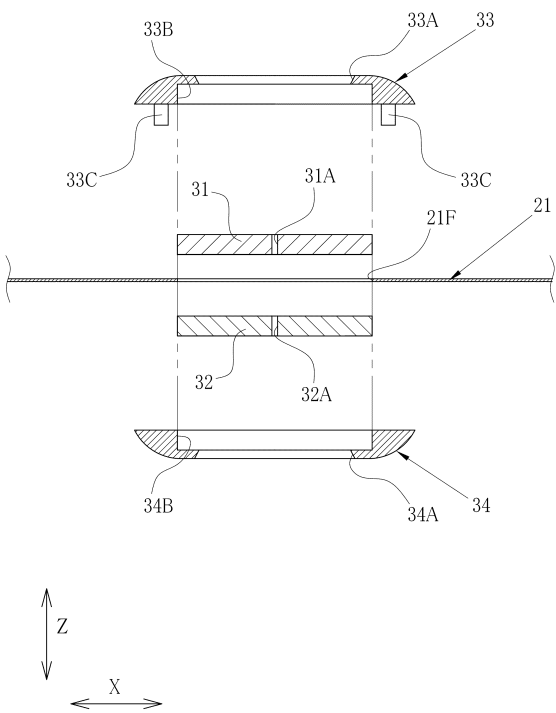


30

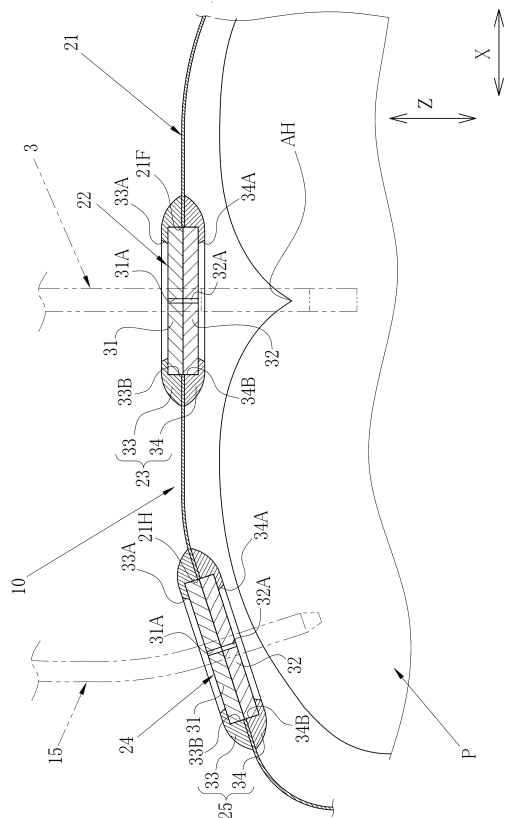
40

50

【図 9】



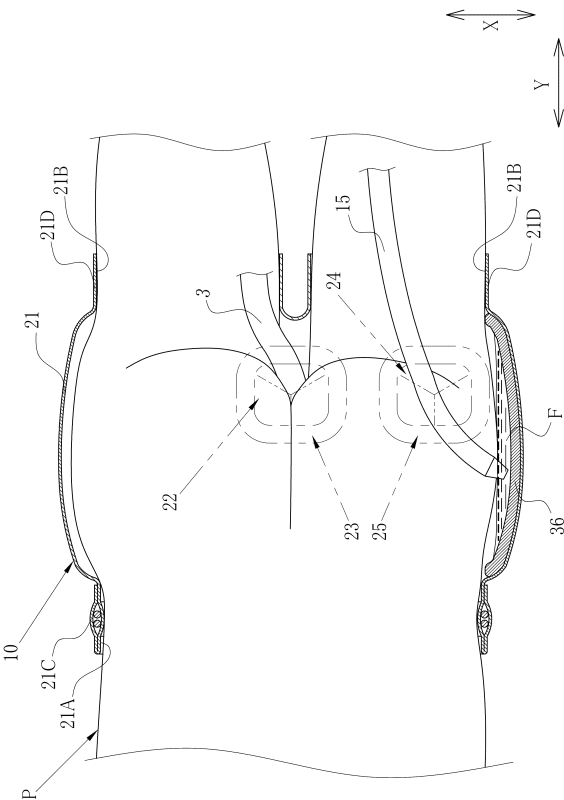
【図 10】



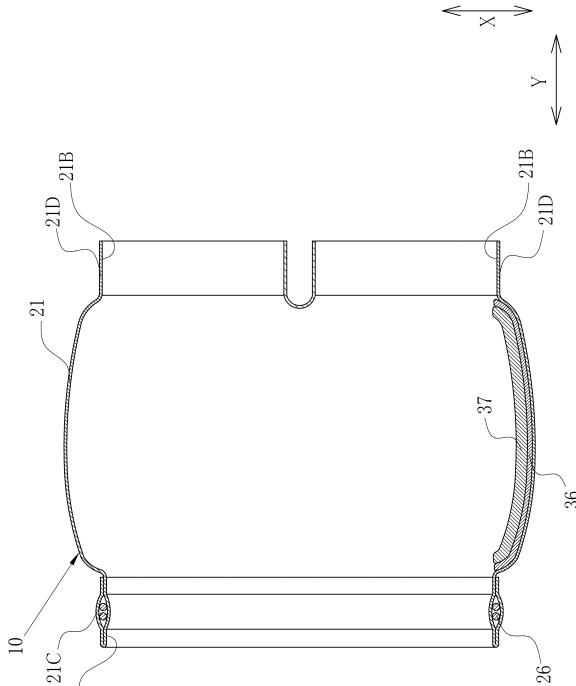
10

20

【図 11】



【図 12】

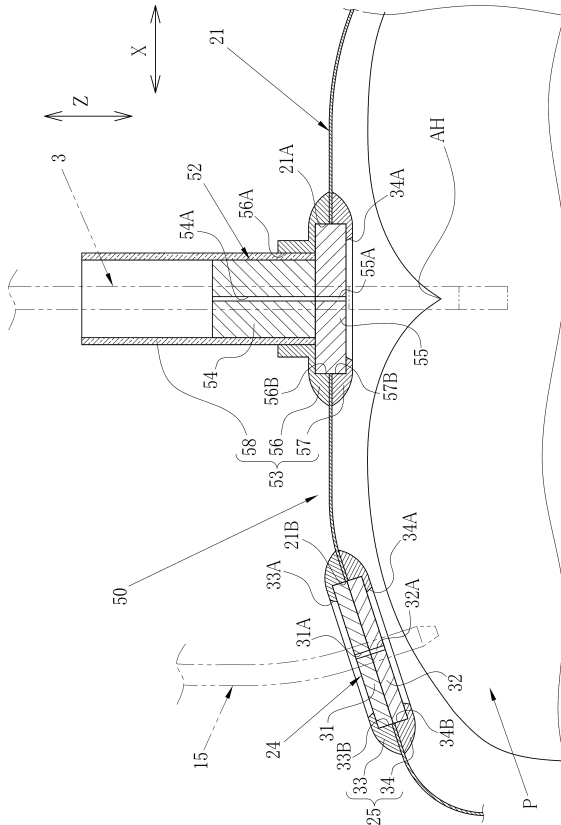


30

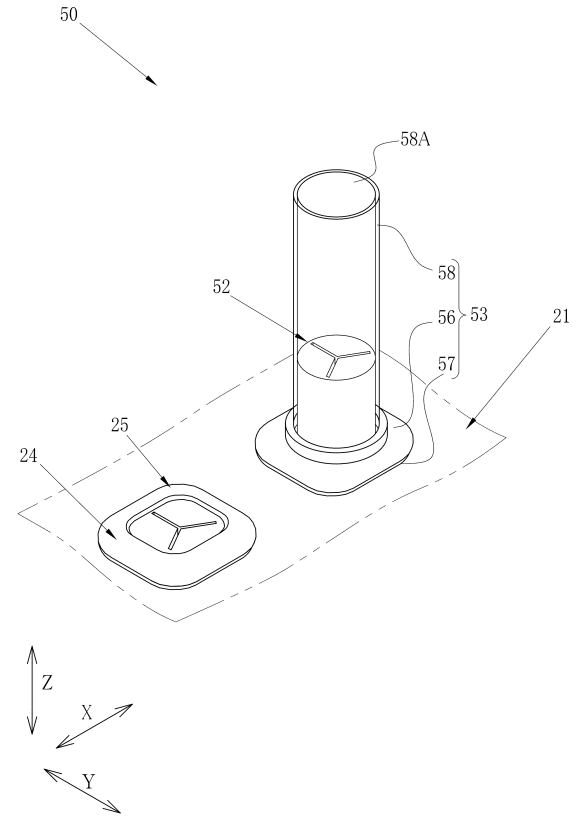
40

50

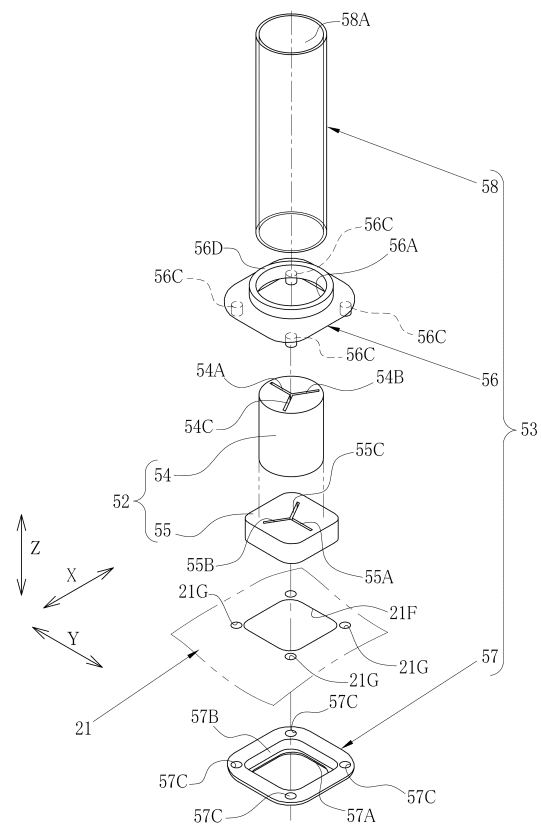
【 図 1 3 】



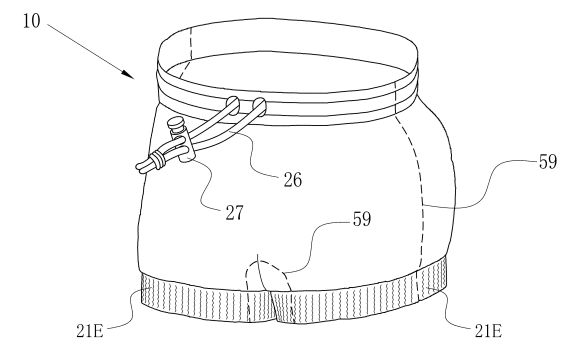
【圖 14】



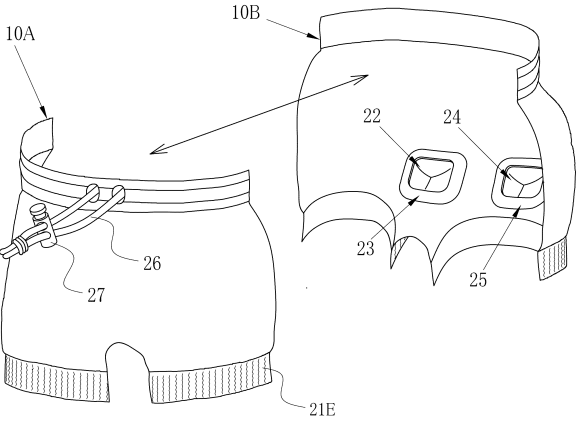
【 図 1 5 】



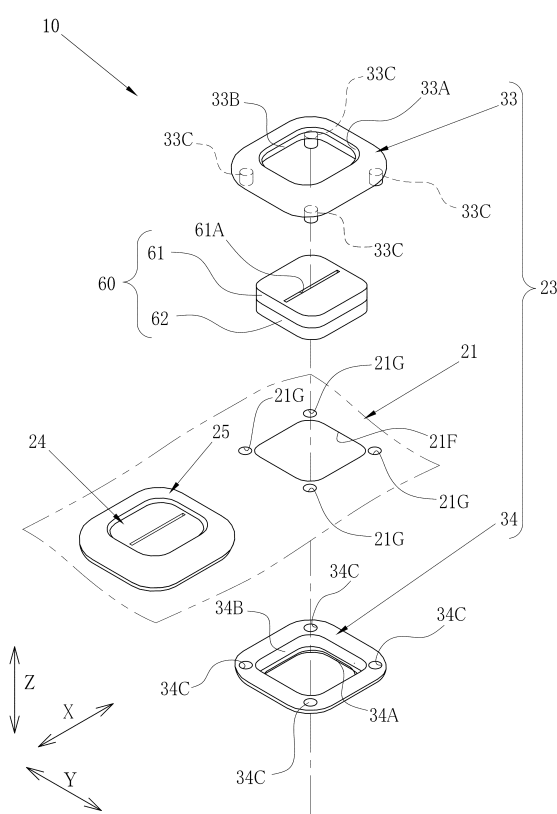
【 図 1 6 】



【図 17】



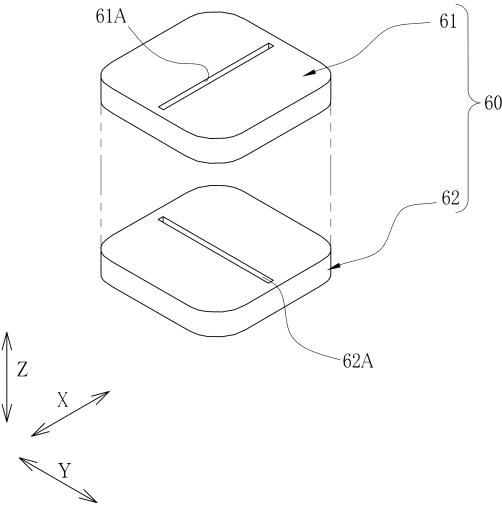
【図 18】



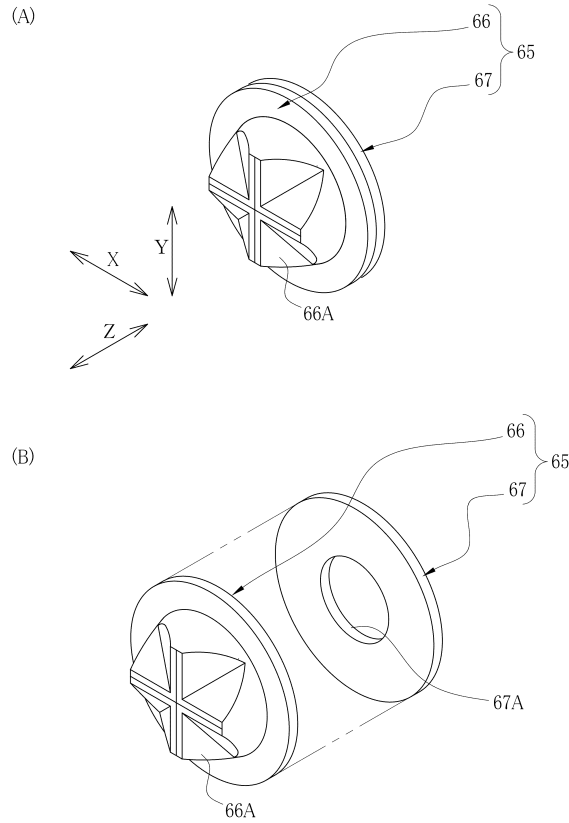
10

20

【図 19】



【図 20】

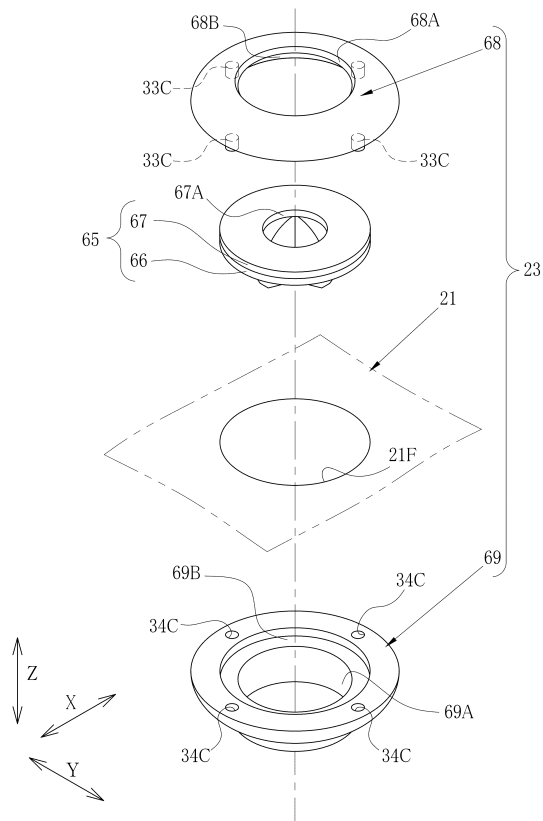


30

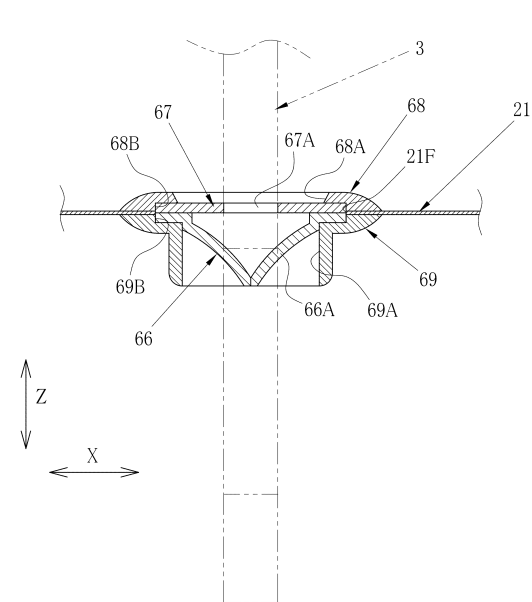
40

50

【図 2 1】



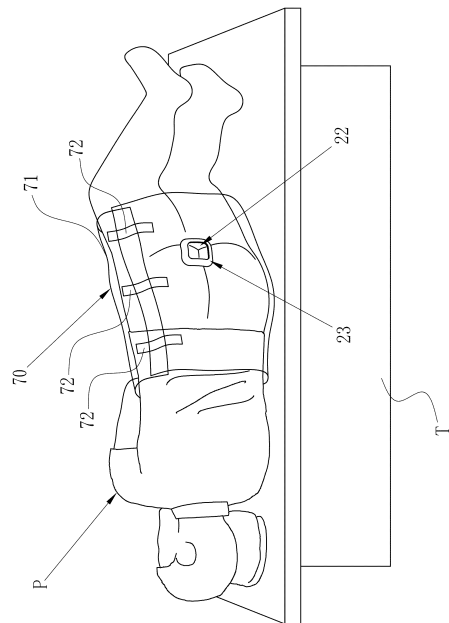
【図 2 2】



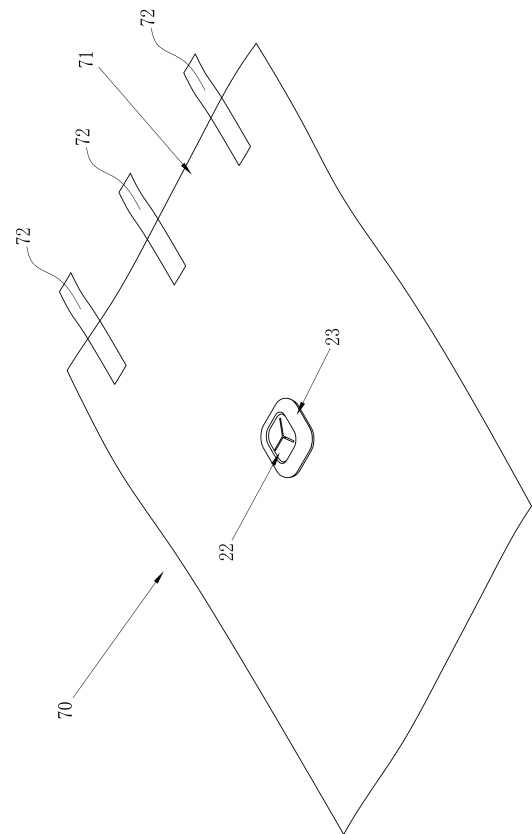
10

20

【図 2 3】



【図 2 4】

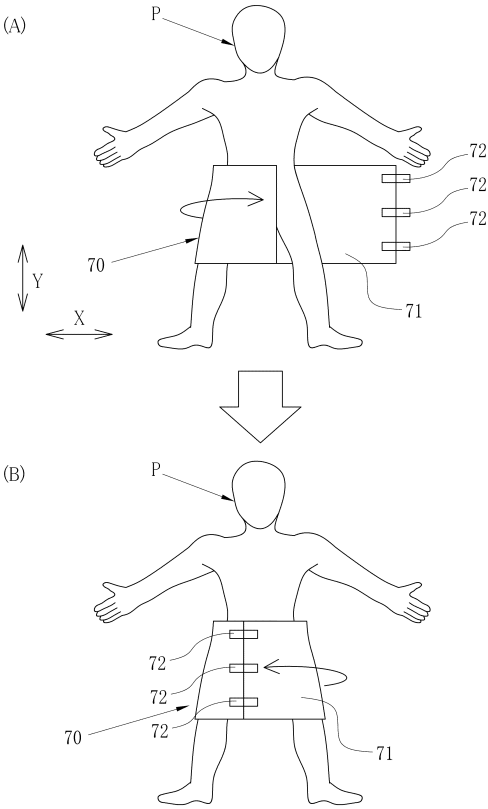


30

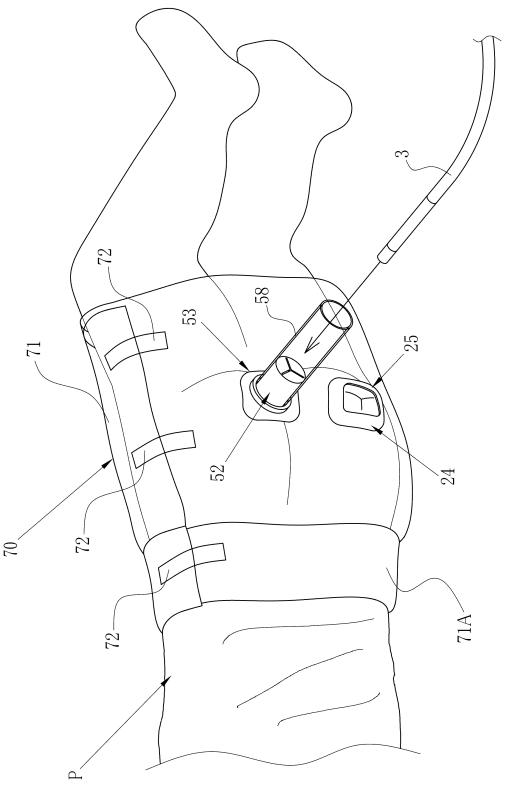
40

50

【図 2 5】



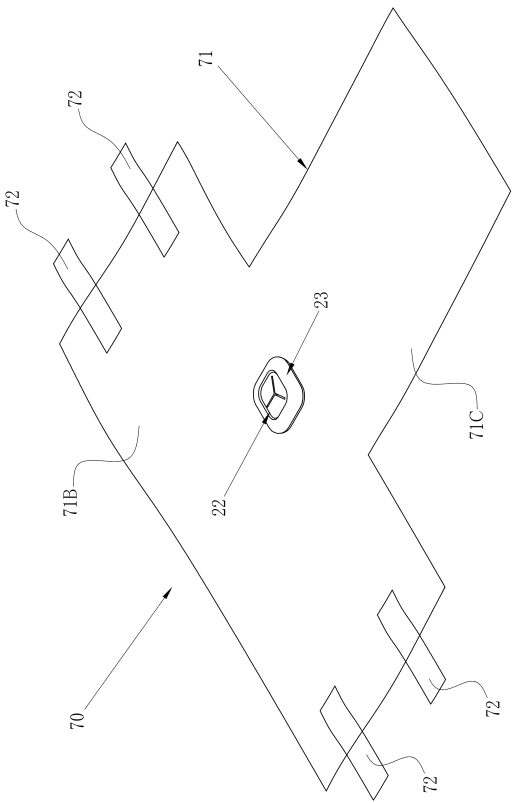
【図 2 6】



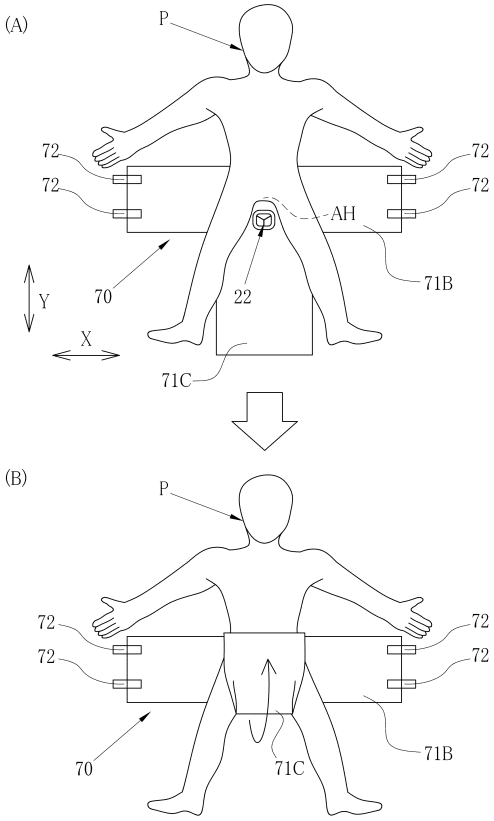
10

20

【図 2 7】



【図 2 8】

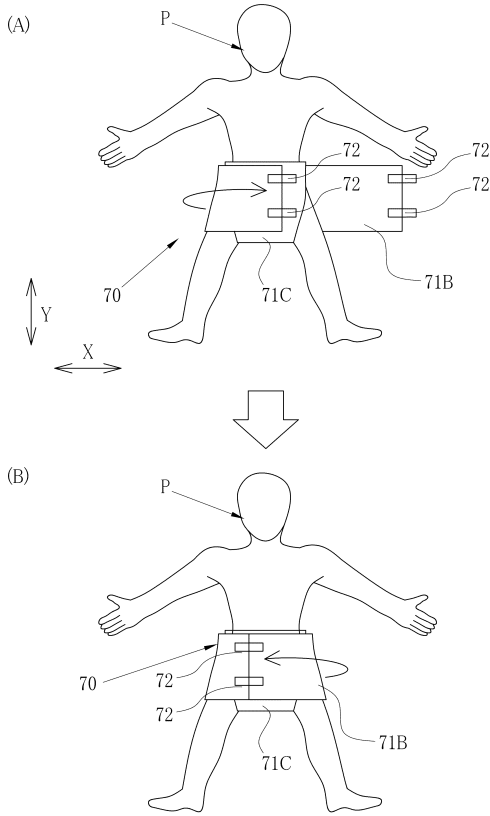


30

40

50

【 図 29 】



10

20

30

40

50

## フロントページの続き

神奈川県足柄上郡開成町宮台 7 9 8 番地 富士フイルム株式会社内

審査官 須賀 仁美

- (56)参考文献 米国特許第 0 4 9 5 3 5 6 6 ( U S , A )  
特開 2 0 1 4 - 2 3 7 9 1 3 ( J P , A )  
特表 2 0 0 6 - 5 2 7 0 5 8 ( J P , A )  
中国実用新案第 2 1 0 9 6 0 5 4 1 ( C N , U )  
中国実用新案第 2 0 6 0 6 2 2 2 3 ( C N , U )  
特開 2 0 0 9 - 0 1 8 1 8 3 ( J P , A )  
国際公開第 2 0 1 5 / 0 9 5 1 2 9 ( W O , A 1 )  
米国特許出願公開第 2 0 0 8 / 0 2 6 2 4 6 2 ( U S , A 1 )  
中国実用新案第 2 0 4 7 6 3 5 3 9 ( C N , U )  
中国実用新案第 2 1 0 4 4 5 7 9 0 ( C N , U )
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)  
A 4 1 D 1 3 / 1 2  
A 6 1 F 1 3 / 1 5 - 1 3 / 8 4  
A 6 1 B 1 / 0 0